

コヲ得又特赦ニ因リ刑ノ執行ヲ免カレタル者モ亦再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得蓋シ
期滿免除又ハ特赦ニヨリテ刑ノ執行ヲ免カル、モ其言渡ハ消滅スルモノニ非
ス故ニ再審ニ依リ不名譽ノミナラス言渡ヨリ生スル結果ヲ消除スルノ利益ヲ
有スルモノナリ

刑ヲ消滅セシムルハ獨リ時効又ハ特赦ノミナラス大赦モ亦刑ノ消滅ヲ來スモ
ノナリ第三百三條ニヨレハ刑ノ消滅シタルニ係ラス再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ル
トアリ故ニ大赦ヲ受ケタルモノモ之ヲ爲スコトヲ得ルカ如キモ然ラス如何トナ
レハ大赦ヲ受ケタル者カ再審ノ訴ヲ以テ攻撃セント欲スル確定判決ハ已ニ法
律ニヨリテ消滅シ判決ハ最初ヨリ無キモノトナリノ被告人ハ青天白日ノ人ト
ナリ再審ヲ爲スノ利益ヲ有セザレハナリ
特赦ニヨリテ刑ヲ免セラレ復權ヲ得タルモノト雖モ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ル
ヤ此復權ヲ得タルモノニアリテハ特赦ニヨリテ刑ハ消滅シ且其刑ノ結果トシ
テ發生シタル失權ハ之ヲ回復シタルモノナレハ最早刑ヲ言渡シタル判決ヲ攻
撃スルノ利益ハ一モ存在セザルモノ、如シ然レモ後日罪ヲ犯スニ當リ其前判

決ノ存在スルキハ再犯ヲ以テ論セラル、カ故ニ復權ノ後ト雖モ再審ノ訴ヲ爲
シテ其判決ヲ消滅セシムルノ利益アリ例ハ復權ノ後再審ノ訴ヲ爲シ其訴ハ
理由アルモノトシテ上告裁判所ハ原判決ヲ破毀シ原判決ノ失當ヲ認メ無罪ヲ
言渡シタル時ハ其人ハ再審以前ヨリモ尙ホ潔白ナル位置ニアルヲ得ヘシ若シ
之ニ反シテ裁判所ガ攻撃ヲ受ケタル原判決ト同一ニ刑ヲ適用シタルキハ先キ
ノ特赦及ヒ復權ハ其効力ヲ失フヤト云フニ決シテ然ラス特赦ハ刑ノ執行ヲ止
ムルノ方法ニシテ復權ハ其刑ノ結果ヲ消除スルノ特典ナレハ恰モ刑ノ執行ヲ
終リタル後再審ノ訴ヲ爲シタルト同一ニシテ其再審ノ結果有罪ナリトテ再ヒ
刑ヲ執行ス可キ理由ナシ故ニ復權ヲ得タルモノト雖モ再犯加重ヲ爲スカ如キ
結果ヲ生スル判決ハ再審ノ訴ヲ以テ之ヲ攻撃スルコトヲ得セシム
○再審ハ確定判決ニ對シテ爲スモノナリ然ルニ確定判決ハ常ニ執行ヲ爲スコ
トヲ得ルモノナルヲ以テ再審ノ訴ハ其執行ヲ停止スルノ効力ナキモノナルカ法
律ニ於テハ一モ再審ノ訴ニ原判決ノ執行ヲ停止スルノ効力アルコトヲ規定セス
故ニ再審ノ訴ハ執行ヲ停止スルノ効力ナキモノト云フ可シ然レモ死刑ノ宣告

ニ付テハ第三百十八條ニ言渡確定シタルトキハ檢事ヨリ速ニ訴訟記録ヲ司法大臣ニ差出シ司法大臣ヨリ死刑ヲ執行ス可キ命令アリタルハ云々トアレハ未タ命令ノアラサル前ニ於テ再審ノ訴ヲ爲シ其執行命令ノ到着シタルハ再審ノ訴アルニモ係ラス死刑ヲ執行スルカ如クシハ苛酷ニ過クルモノト云フヘシ故ニ再審ノ訴ニ執行停止ノ効力アルヤ否ヲ見ルニハ先ツ刑ノ執行ヲ爲スモ回復シ得ルモノナルヤ否ヤニ在リテ已ニ再審ノ訴アリタル上死刑ノ如キ回復スヘカラスアルモノニアリテハ執行ヲ停止スヘシ

死刑ノ宣告ト雖モ再審ノ訴アルニ係ラス執行ヲ爲シ得ルモノトセハ多クハ此判決ニ對スル再審ノ訴ニシテ理由アルハ只名ノミニシテ實益ナカルヘシ被告ノ目的ハ確定判決ヲ攻撃シテ之ヲ罷シ以テ自己ノ生命ヲ全ウセントスルニ在リ然ルニ其判決ヲ執行シ得ルモノトスルハ被告人已ニ死去シタル後ニ原判決ノ不當ナルヲ表明スルナラン是レ死刑ノ宣告ヲ受ケタル被告人ニ對シテハ再審ヲ許サスト規定セルト同一ニ歸スヘシ凡ソ法ヲ解スルモノハ其法ヲシテ徒法ナラシメシヨリ寧ロ法ヲ活用セシメサルヘカラス然ラハ死刑ノ言渡

再審ノ訴ヲ爲スルモノハ其趣意書ニ原判決ノ謬本及ヒ證據書類ヲ添ヘ之ヲ原裁判所ニ差出ス可シ
 後不服ノ點ヲ明示セル趣意書ヲ差出ス可キモノトス然レハ再審ノ訴ニ至リテハ別段ニ申立書ナルモノヲ差出スヲ要セス直チニ趣意書ヲ差出スヲ以テ足レリトス上告ニハ期間アリテ之ヲ經過スレハ訴權ヲ失ヒ其期間ハ短キヲ以テ完全ナル趣意ヲ差出ス能ハス故ニ先ツ上告ヲ爲スノ申立ヲ爲シテ以テ其意思ヲ表明シ後ニ完全ナル趣意書ヲ呈出セシム然ラズンハ上告者ニ向ツテ難キヲ

ノ如キハ被告人ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタル上ハ停止セラルヘモノトシテ始メテ再審ノ趣旨ヲ貫徹スルヲ得ヘシ然レハ執行マテ此訴ナキハ執行スルコト勿論ナリ

其他ノ刑ニ至リテハ假令之ヲ執行スルモ回復スルヲ得ルモノナルカ故ニ再審ノ訴ヲ以テ停止スルモノニ非ス殊ニ罰金及私訴判決ノ如キハ充分ニ回復スルヲ得ルモノナルヲ以テ決シテ其執行ヲ停止スルモノニ非サルナリ

第五節 再審ノ訴ヲ爲スノ方式

再審ノ訴ヲ爲サント欲スルモノハ其趣意書ニ原判決ノ謬本及ヒ證據書類ヲ添ヘ之ヲ原裁判所ニ差出ス可シ
 後不服ノ點ヲ明示セル趣意書ヲ差出ス可キモノトス然レハ再審ノ訴ニ至リテハ別段ニ申立書ナルモノヲ差出スヲ要セス直チニ趣意書ヲ差出スヲ以テ足レリトス上告ニハ期間アリテ之ヲ經過スレハ訴權ヲ失ヒ其期間ハ短キヲ以テ完全ナル趣意ヲ差出ス能ハス故ニ先ツ上告ヲ爲スノ申立ヲ爲シテ以テ其意思ヲ表明シ後ニ完全ナル趣意書ヲ呈出セシム然ラズンハ上告者ニ向ツテ難キヲ

責ムルモノト謂フヘシ然レモ再審ノ訴ニ於テハ期間ノ定メナク法律ノ許シタル再審ノ原因ノ存在スルハ何時ニテモ爲スコトヲ得ヘケレハ時機ニ後ルノ憂ナク從テ再審ノ理由ヲ發見スルニ十分ナル時日ヲ有ス故ニ直チニ趣意書ヲ差出スヘキモノトス

再審ノ訴ハ期間ノ定ナキヲ以テ永キ時間ヲ隔テタル後ニ於テ爲スモノナルカ故ニ判決ノ謄本ヲ訴ヲ爲ス者ヨリ差出スヲ要ス他ノ上訴ニアリテハ原判決ハ未確定ニシテ裁判所ハ其申立若クハ趣意書ニヨリテ如何ナル判決ナルヤヲ容易ニ知ルコトヲ得レモ再審ニ至リテハ其攻讐ヲ爲ス所ノ原判決ヲ示スニ非スンハ裁判所ハ或ハ如何ナル判決ナリシヤヲ知ル能ハス好シ又之ヲ知ルコトヲ得ルトスルモ繁雜ナル調査ヲ爲サ、ル可カラズ而シテ其繁雜ナル調査ヲ誤リテ却テ錯誤ヲ來スヤモ難計故ニ此訴ヲ爲ス者ハ判決ノ謄本ヲ趣意書ニ附添セサルヘカラス

再審ノ訴ハ確定判決ヲ攻讐スルモノナレハ訴者ハ確實ナル證據ヲ有セサルヘカラス其證據ハ書面ヲ以テ開示スヘシ其證據書類ノ有無ハ再審ノ訴ヲシテ効

アラシムルト否トノ岐ル、所ナレハ申立人ヨリ證據書類ヲ趣意書ニ附添ス可キハ勿論ナリトス
原判決ノ謄本及ヒ證據書類ヲ附添シタル趣意書ハ之ヲ原裁判所ニ差出ス可シ然レモ其裁判所ヲシテ再審ノ訴ニ對シテ意見ヲ附セシムルカ爲ニ非ス若シ直チニ上告裁判所ニ之ヲ差出ストスレハ原裁判所ハ或ハ其再審ノ訴アルコトヲ知ラスシテ終ルニ至ラン而シテ原裁判所トハ如何ナル裁判所ナルカヲ見ルニ第一審ノ判決ニテ確定シタル判決ニ對スル再審ノ訴ヲ爲ス時ハ其第一審裁判所ナリ若シ第一審裁判所第二審裁判所ヲ經猶上告アリタル後確定シタル判決ニ對スル再審ノ訴ニ付テハ原裁判所ハ上告裁判所ニ非サルコトハ勿論ナリ何トナレハ再審ハ事實ニ對スル訴ナルニ上告裁判所ハ事實ニ對シテ訴ヲ受ケタルモノニ非サレハナリ第二審ニ於テ確定シタル判決ニ對スルハ原裁判所ハ第一審裁判所ナルカ第二審裁判所ナルカノ疑ヲ生ス可シ然レモ再審ノ訴ハ現ニ執行スル刑ノ言渡ヲ爲シタル判決ニ對シテ爲スモノナレハ事件カ第一審ヲ經第二審ニ於テ刑ヲ言渡シタルハ其裁判所若シ控訴ヲ棄却シタルハ第一審裁判

所ヲ以テ原裁判所ナリトス第二百四十九條ニ於テ見タル如ク上訴完結ノ上ハ訴訟記録ハ第一審裁判所ニ送附シ總テ第一審裁判所ノ保管スル處ナレハ再審ニ必要ナル書類ハ總テ第一審裁判所ニアルヲ以テ此便利ノ點ヨリ論スル時ハ再審ノ訴ハ第一審裁判所ニ差出ス可キモノ、如シト雖モ再審ノ訴ヲ爲スモノヨリ見ルキハ其訴訟記録ノ何レニ保管セラレアルヤハ敢テ與リ知ル所ニ非ス現ニ執行セラル、刑ヲ言渡シタル裁判ヲ目的トスルノ外ナケレハ其言渡ヲ爲シタル裁判所ニ申立ヲ爲スヘキハ當然ナリ今第一審ニ於テハ無罪ノ判決ヲ得檢事ヨリ控訴シテ有罪ノ判決ヲ言渡シタル場合ヲ想像セハ訴訟記録ハ第一審ニ保管セラル、モ元來第一審裁判所ハ刑ヲ言渡シタルモノニ非サルカ故ニ其判決ニ對シテハ不服ノ理由ナク只第二審ノ判決ニ對シテハ不服ノ點アリ然ラハ不服ノ申立ヲ爲スヘキハ判決ヲ言渡シタル第二審裁判所ナリトスヘシ然レトモ第二審裁判所ニ於テ第一審裁判所カ言渡シタル有罪ノ判決ヲ取消サスシテ控訴ヲ棄却シタル時ハ如何此時ハ第一審裁判所ヲ以テ原裁判所ト爲ス可シ此場合ニ於テハ第二審裁判所ハ第一審裁判所ノ當否ヲ鑑査スルニ非スシテ自ラ

審理判決ヲ爲シタリト雖モ其執行スルモノハ第一審ノ判決ナリ原裁判所ニ再審ノ趣意書ヲ差出シタルハ裁判所ハ之ヲ檢事ニ送附シ檢事ハ其書類ニ意見書ヲ添へ之ヲ上告裁判所ノ檢事ニ差出ス可キモノトス上告ノ場合ニ於テハ原裁判所ノ檢事ハ其上訴ノ對手人ナルヲ以テ其上訴ニ對スル意見ハ即チ答辯ニシテ直チニ之ヲ上告裁判所ニ差出シ又上告裁判所ハ對手人ノ答辯トシテ審査ス可キモノナリト雖モ再審ノ訴ニハ元來對手人ト稱スルモノナシ原被相爭フノ時ニ於テ對手人アリ控訴及ヒ上告ノ如キ檢事ハ公益ノ代表者トシテ刑ノ適用ヲ求メ被告ハ其責ナシト拒ンテ雙方相爭フカ故ニ原被告アルモ再審ノ訴ニ至リテハ判決已ニ確定シ檢事ハ其案件ニ原告タルノ關係ヲ脱シタル後ノ事柄ナレハ決シテ對手人ト云フモノニ非ス故ニ其意見ヲ直チニ上告裁判所ニ差出スニ非ス上告裁判所ノ檢事ニ差出スナリ蓋シ上告裁判所ノ檢事ハ其意見ヲ聞クノ必要アルカ爲ナリ如何トナレハ再審ノ訴ニ添ヘタル證憑書類ノ如キハ多ク訴訟記録外ノ物ニシテ其信偽若クハ證憑力ノ如何ハ原裁判所ノ檢事カ事實ニ付キテ取調ヲ要スルモノナルカ故ナリ而シテ其原裁判所ノ檢事

ノ意見ハ後日上告裁判所ノ檢事ノ意見トナリテ上告裁判所ニ願表スルモノナ
 リ
 第三百四條ニ原裁判所ノ檢事ハ其書類ニ意見書ヲ添ハ之ヲ上告裁判所ノ檢事
 ニ差出ス可シトアリテ其書類ト稱スルハ前項ニ所謂趣意書並ニ之ニ附添セル
 判決原本ノ謄本及證據書類ヲ指スモノニシテ一切ノ訴訟記録ヲ附添スヘシト
 云フニ非ス蓋シ再審ノ訴ノ當否ヲ判斷スルニハ一切ノ訴訟記録ヲ調査スルノ
 必要ヲ見サレハナリ已ニ申立人ヨリ差出シタル證據書類ニヨリテ果シテ再審
 ノ原因アリヤ否ハ之ヲ判斷スルヲ得可シ例ヘハ公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ
 偽造又ハ錯誤アリト證明シタルモノ如キハ其錯誤又ハ偽造アリトシタル訴訟
 記録ハ果シテ再審申立者ノ云フ如キ訴訟記録ナリヤ否ヲ知ルノ必要アルモ其
 申立ノ如クナルヤ否ハ原裁判所ノ檢事ニ於テ意見ヲ附ス可ケレハ其意見ハ上
 告裁判所檢事ニ之ヲ願表シ裁判所ハ之ニ心證ヲ置テ以テ判斷スルヲ得ヘシ
 以上述ヘタル所ハ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノ及ヒ親族ヨリ再審ヲ爲スニ付テノ
 方式ナルカ檢事ヨリ再審ヲ爲スコトアリ第三百四條ノ第三項ニハ區裁判所ノ檢

事及ヒ控訴裁判所ノ檢事自ラ再審ノ訴ヲ爲サントスルハ前項ノ手續ニ從ヒ
 其書類ヲ差出ス可シトアリ其原裁判所ノ檢事トアルハ第三百二條ノ第一號ニ
 刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事トアルモノニ當リ又控訴裁判所ノ檢事トア
 ルハ其第二號ノ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ管轄スル控訴裁判所ノ檢事トア
 ルモノニ當ル此第二項ハ事件カ控訴ニ係リタルト否トヲ問ハス再審ノ訴ヲ爲
 スノ權ヲ與ヘタルモノナレハ必ス控訴アリタル事件ニ限ルモノト爲ス可カラ
 ス是等ノ檢事ヨリ再審ヲ爲スルハ前項ノ手續ニ從ヒ其書類ヲ差出ス可シトノ
 ミアルニヨリテ見レハ前項ノ書類ト稱スルハ趣意書並ニ原判決ノ謄本及ヒ證
 據書類ヲ指スモノナルカ故ニ檢事ハ趣意書ヲ差出ス可ク其趣意書ノ内ニハ檢
 事ノ意見ヲ包含スルコト勿論ナリ然レモ其趣意書並ニ書類ハ直チニ之ヲ上告裁
 判所ニ差出スニ非スシテ上告裁判所ノ檢事ニ之ヲ差出スモノナリ
 刑ノ言渡ヲ受ケタル者若クハ其親族及ヒ原裁判所控訴裁判所檢事ノ爲シタル
 再審ノ訴ハ共ニ第三百四條ノ定ムル如ク原裁判所檢事ヨリ上告裁判所ノ檢事
 ニ差出シ其之ヲ受タル上告裁判所ノ檢事ハ之ヲ上告裁判所ニ差出スヘキモノ

トス蓋シ再審ハ確定判決ヲ動かサス所ノ重大ナル訴ナルカ故ニ上告裁判所ノ檢事ヲ經由スルコトヲ要スルナリ然レトモ法律ハ上告裁判所檢事ヲシテ再審ノ訴ヲ取捨スルノ權利ヲ與フルニ非ス換言スレハ上告裁判所檢事ハ原裁判所檢事ヨリ書類ヲ受取り再審ヲ理由ナシトシテ之ヲ上告裁判所ニ差出サ、ルコトヲ得ルノ職權アリトハ云フコトヲ得ス只事ノ重大ナルヲ以テ此檢事ノ手ヲ經由スヘシト云フニ過キス

上告裁判所檢事モ亦自ら再審ノ訴ヲ爲スヲ得ルコトハ第三百二條第三號ニ於テ見タル所ナリ此場合ニ於テハ上告裁判所檢事カ調査ノ爲メ原裁判所ノ檢事ノ意見ヲ開クコトハアリ得可キモ決シテ法律上ニ於テハ之ヲ必要ナラトセ直ニ上告裁判所ニ向テ此訴ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第六節 再審ノ訴ニ對スル判決

再審ノ訴ト再審トハ自ラ區別アリ再審ノ訴ハ確定判決ニ對シテ再審ヲ求ムルモノニシテ其訴ヲ理由アリト爲シタル上ハ該事件ヲ再ヒ審理判決ス之ヲ再審ト爲ヌ本節ニ於テ見ント欲スル所ハ其再審ノ訴ヲ受ケタルル其訴ノ理由アル

ヤ否ヲ審理スルノ手續ナリ

前節ニ述ヘタル如ク上告裁判所ノ檢事ノ手ヲ經テ再審ノ訴ヲ上告裁判所ニ提出シタルルハ上告裁判所ハ其訴ノ審理ニ着手セザルヘカラス

第三百五條 上告裁判所ニ於テハ檢事ノ請求ニヨリ受命判事一名ヲシテ其取

調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムヘシ

上告裁判所ノ第一着ニ爲ス可キ手續ハ受命判事ヲ命シテ其事件ノ取調ヲ爲サシムルコトナリトス上告ニ付テハ第二百八十條ニ於テ裁判長ハ受命判事ヲ定ム可シト規定シアルノミナルモ第三百五條ニハ檢事ノ請求ニヨリ受命判事一名ヲシテ其取調云々トアリ故ニ常ニ受命判事ヲ命スルモノニ非スシテ只檢事ノ請求アリタル時ニ於テノミ受命判事ヲ命ス可キモノ、如シト雖モ本條ノ所謂檢事ノ請求ニヨリトアルハ上告裁判所ノ檢事ヨリシテ事件ノ審理ヲ請求シタルコトヲ云フモノニシテ受命判事ノ任命ヲ請求スルノ意ニ非ス上告裁判所ノ檢事ノ手ヲ經テ再審ノ訴ヲ差出シタル時ニハ別ニ檢事ノ請求ナキモ受命判事ニ其取調ヲ命スルハ敢テ差支アルモノニ非ス如何トナレハ受命判事ヲ任スルコ

ハ審理上ノ便宜ニ出ツルモノニシテ敢テ他ノ請求ニヨリテ左右ス可キ事柄ニ非サレハナリ

本條ニ速ニ受命判事一名ヲシテ其取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムヘシト規定シアリ故ニ再審ノ訴ハ普通事件ノ如ク順序ヲ遵フテ審理スルニ非スシテ特別ニ速ニ審理判決ヲ爲ス可キモノトス蓋シ再審ノ訴ハ上告ノ如クニ一般ニ執行ヲ停止スルノ効力ヲ有スルモノナラサルヲ以テ速ニ判決ヲ爲サ、レハ或ハ無罪ナル者カ一日ニテモ刑ノ執行ヲ多ク受クルノ結果ヲ生ス可ケレハナリ

○日ニ受命判事ニ於テ取調ヲ終リタルキハ上告裁判所ハ其再審ノ訴ニ對シテ判決ヲ爲ス可シ

第二百六條 上告裁判所ニ於テハ受命判事ノ報告及ヒ檢事ノ意見ヲ聞キ判決ヲ爲ス可シ

我刑事訴訟法ニ於テハ凡テ判決ヲ爲スニハ法廷ヲ開キ辯論ヲ爲スヲ必要トス故ニ受命判事ノ報告及ヒ檢事ノ意見ハ法廷ニ於テ之ヲ爲サ、ル可カラス上告ニ付テハ第二百八十三條ニ於テ定メタル如ク檢事及ヒ辯護士ハ各其趣意ヲ辯

明ス可シトアリ然ルニ再審ニハ受命判事ノ報告ト檢事ノ意見ヲ聞ク可キトヲ規定セルノミニシテ辯護士ニ關スル一ノ規定ナシ故ニ或ハ再審ニ付テハ辯護士ヲ出シテ法廷ニ於テ辯明ヲ爲サシム可キモノニ非ストノ疑問ヲ生ス上告ノ如キハ檢事ナル對手人アルヲ以テ辯護士ヲシテ辯明セシムルノ必要アルモ再審ニ付テハ檢事ハ相手方ニ非サルヲ以テ之ニ對シ辯護スルノ必要ナキカ如シト雖モ再審ノ趣旨ヲシテ明瞭ナラシムルニハ辯護士ヲシテ辯明セシムルノ必要アリ又檢事ハ法廷ニ於テ必シモ被告人ノ利益ヲ主張スルモノニ非ス若シ不幸ニシテ趣意書ニ反對ノ意見即チ被告人ニ不利益ナル意見ヲ陳述スルトアラシモ知ル可カラス然ルハ辯護士ヲシテ之ヲ辯護スルノ必要アリトス故ニ輕罪ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ再審ノ訴ヲ爲シテ辯護士ヲ出シタル時ハ其辯明ヲ聞ク可ク又重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者其訴ヲ爲シテ辯護士ヲ撰任セサル時ハ上告ニ於ケル如ク辯護士ヲ撰任シテ以テ辯明ヲ爲サシメタル後判決ヲ爲ス可キナリ檢事ヨリ被告人ノ利益ノ爲メ此訴ヲ爲スルハ辯護士ノ辯明ヲ聞クノ理由ナキカ如シ然レモ彼ノ上告ト雖モ檢事ハ被告人ノ利益ノ爲メニ上告スル

場合ナシトモス此場合ト雖モ重罪事件ニシテ本人ヨリ辯護士ヲ撰任セザルトキハ裁判所ニ於テ辯護士ヲ撰任セザルヘカラス再審ノ訴ト雖モ此點ニ於テハ何ソ上告ト異ナランヤ辯護權ノ效用カ上告ニ於ケルモ再審ニ於ケルモ均シク一ナル上ハ獨リ上告ニ於テノミ辯護士ノ必要アリテ再審ニ於テハ其ノ必要ナシト論斷スルコト得ス

○上告裁判所ニ於テ審理ヲ爲シタル上ハ如何ニ判決ヲ爲ス可キモノナルヤ再審ノ訴ニシテ理由ナキ時ハ其訴ヲ棄却スルノ判決ヲ爲ス可キモノトス而シテ其棄却ノ判決ヲ爲ス可キ場合ハ左ノ二個ノ場合ナリトス

第一、再審ノ訴ノ原因カ第三百一條ニ掲ケタル第一號乃至第六號ノ項目中ノ何レノ場合ニモ適合セザルキ

何レノ場合ニ於テモ再審ノ訴ヲ爲スニハ其原因ヲ證明ス可キ證據ヲ提出スルヲ必要トス故ニ其證據ニシテ完備セザルキハ即チ再審ノ原因ナク第三百一條ノ項目ニ適合セザルモノトシテ棄却ノ言渡ヲ爲スヘシ治罪法草案ヲ見ルニ第五百八十八條第四項ニ證明書類ヲ差出サ、ル時ハ棄却ノ判決ヲ爲ス

可シト雖モ裁判所ヲシテ其提出ヲ爲スカ爲メニ期限ヲ與ヘテ棄却ノ判決ヲ猶豫スルコトヲ得セシメタリ證據書類ハ自己ニ於テ充分ナリトスルモ猶ホ不完全ナルコトアリ其不完全ヲ補ハシメシカ爲メ棄却ノ猶豫ヲ爲スニ於テハ大ニ其宜シキヲ得ヘク裁判所ハ或ハ原因ノ存在セルナラント推想スルモ其證據書類ノ不完全ナルカ爲メニ不得止棄却ヲ爲スカ如キコトナカル可シ然レモ刑事訴訟法ニ於テハ此規定ナシ故ニ趣意書及ヒ之ニ附添スル證據書類其他後日追加シタルモノ即チ判決ヲ爲ス迄ニ提出證據書類ニヨリテ判決ヲ下スヘク猶ホ其他ニモ證據アル可シトノ推測ヲ以テ棄却ノ判決ヲ遅延スルコトヲ許サ、ルナリ

第二、本法第三百二條ヲ以テ許シタル資格ヲ有セザル人ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタルキ
法律ハ再審ヲ爲スコトヲ得可キ人ハ死者ノ親族迄ニモ及ホシ充分ニ其區域ヲ擴張シタルハ其以外ノ人ヨリ再審ノ訴ヲ爲スモ其訴ノ當否ニ拘ラス上告裁判所ハ棄却ノ判決ヲ爲サ、ルヲ得ス

再審ノ原因ナシトシテ棄却ノ判決ヲ爲シタル時ハ其申立人ハ更ニ同一事件ニ付再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ルモノナル乎此問題ニハ一事不再理ノ原則ヲ適用スルコトヲ得ベシ凡ソ再審ハ已ニ確定シタル判決ニ對シテ爲スモノニシテ其效果トシテ確定力ヲ動カスモノナリ若シ同一事件ニ付テ同一ノ理由ヲ以テ幾度モ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ルモノトセンカ遂ニ底止スル所アラサルヘシ然レモ一度再審ヲ爲シ確的ノ證據ナクシテ棄却セラレタルモ後殺サレタリトセシ人顯出スルカ如キ確的ノ證據ヲ發見シタルハ訴ノ原因ヲ異ニスルヲ以テ更ニ訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ何ソ其確證アルモ猶ホ殺人ノ犯罪者ナリトシテ刑場ノ鬼ト化セシムルコトアラシヤ苟モ其原因ヲ異ニシタルハ幾度ニテモ爲スコトヲ得ヘシ

再審ノ申立人ヲ異ニスルハト雖モ其理由ヲ同クスルニ於テハ之ヲ受理審判セサルコトヲ得ヘシ例ハ初ハ被告人ヨリ共犯人ニ非スシテ同一事件ニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリトシテ再審ノ訴ヲ爲シ上告裁判所ハ其訴ハ再審ノ理由ナキモノト認メ棄却ヲ言渡シタルニ檢事ヨリ更ニ同一ノ證據書類ヲ

呈シ再審ノ訴ヲ爲シタルハ之ヲ棄却セサルヘカラス何トナレバ其審理判決ニキ點ハ被告人ノ訴ニ於ケルト全ク同一ナレハナリ一事不再理ノ原則ヲ訴訟當事者ヲ異ニスル場合ニ適用セサルハ新タナル當事者カ權利上ノ資格ヲ異ニスルヲ以テナリ例ハ甲者ニ對シテ義務アリト判決スルモ其判決ノ効力ハ甲者一人ニ止マリ乙者ニ於テハ同一事件ニ付義務ナキモノナルヤモ知ルヘカラサルヲ以テ乙者ヨリ訴ヘタルハ同一ノ事件ニ付テ判決ヲ爲サ、ルヘカラス又同一ノ人ト雖モ最初ハ主タル義務者トシテ訴ヲ爲シ判決ヲ以テ義務アリトシタル後保證人ニ非ストノ理由ヲ以テ更ニ訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ其事件ハ同一ナルモ訴訟人ノ資格ハ異ナルヲ以テ一事不再理ノ原則ヲ適用スルヲ得ス然ルニ再審ノ場合ニ於テハ被告人ヨリスルモ檢事ヨリスルモ皆被告人ノ利益ノ爲メニスルモノナレハ人異ナリト雖モ資格ヲ異ニスルコトナシ故ニ被告人ヨリ再審ノ訴ヲ爲シ棄却ノ判決アリタル後檢事ヨリ同一ノ理由ヲ以テ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ棄却スヘキナリ

再審ノ訴ニシテ理由アルハ原判決ヲ破毀シ事件ヲ他ノ裁判所ニ移シテ再審

ヲ爲サシム

第三百七條 上告裁判所ニ於テ再審ノ原因アルコトヲ認メタルハ原判決ヲ

破毀シ公訴及ヒ私訴ニ付キ再審ヲ爲スコトヲ言渡シ其事件ヲ原裁判所ト同

等ナル他人裁判所ニ移スコシ

第三百八條 死者ノ親屬ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタル場合ニ於テ上告裁判所ニ

テ再審ノ原因アルコトヲ認メタルハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スコト無ク原

裁判ヲ破毀ス可シ

上告裁判所ニ於テ再審ノ原因アルコトヲ認メタルハ原判決ハ之ヲ破毀シテ其

裁判ノ確定力ヲ失ハシメサルヘカラス已ニ上告裁判所ニ於テ再審ノ理由アリ

ト認メタル時ハ原判決ノ不當ナルコト明瞭ナリト雖モ未ダ刑ノ言渡ヲ受ケタル

モノハ無罪ナリトハ速斷スルヲ得ヌ死者ノ親族ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタル場合

ニ上告裁判所ニ於テ其判決ヲ破毀スルニ止マルハ後ニ見ル如ク特例ナリトス

一般ノ場合ニ於テハ無罪ナリトハ速斷スルヲ得サルヲ以テ原判決ヲ破毀シ公訴

及ヒ私訴ニ付キ再審ヲ爲スコトヲ言渡シ其事件ヲ原裁判所ト同等ナル他人ノ

裁判所ニ移シテ再審ヲ爲サシムルモノトセリ蓋シ再審ノ原因アリト確認シタ

ル時ハ事實ヲ審理セサルヘカラス然ルニ事實ハ上告裁判所ニ於テ之ヲ審理ス

ルコトヲ得サルヲ以テ更ニ事實裁判所ニ其事件ヲ移送シテ審理判決ヲ爲サシム

ルモノナリ例ヘハ訴訟記録ニシテ原判決ノ基本トナリタルモノニ偽造アリト

シテ再審ノ訴ヲ爲シタルニ上告裁判所ハ其訴ノ如クニ偽造ナルコトヲ確認スル

モ果シテ原判決ハ其書類ノミニヨリ犯罪ナルコトヲ認メタルモノナルヤ否ヤ知

ル能ハス若シ原判決ニシテ他ノ證據ニヨリテ犯罪アリト認定シタルモノナラ

シニハ其一箇ノ書類カ偽造ナルコトヲ認メタリトテ無罪ト速斷スルコトヲ得ス原

判決ノ事實ハ偽造ノ證據ニヨリテ定マリタルヤ將タ他ノ證據ニヨリテモ犯罪

ノ認定ヲ下シ得ルヤ乃チ其偽造ノ證據ト他ノ證據トノ間ノ關係ハ事實ノ審理

ヲ經タル上ニ非サレハ判明スルモノニ非ス而シテ其事實ハ諸般ノ證據ニヨリテ

認定ス可キモノナレハ到底上告裁判所ノ爲シ得可キモノニ非ス故ニ其事件ヲ

原裁判所ト同等ナル他人ノ事實裁判所ニ移送シ審理セシム又殺人罪ニヨリテ刑

ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ殺サレタリト認メラレタル者カ處罰後猶ホ生存スル

トノ確證ヲ提出シ上告裁判所ニ於テモ亦其確證ヲ認メタル時ハ最早キ殺人ノ所爲アラサルハ明白ナリ故ニ上告裁判所ニ於テ直チニ無罪ノ判決ヲ言渡ス可クシテ他ニ移送スルノ必要ナキカ如シ然レモ或ハ其被告人ハ殺人罪ハ犯サハルモ毆打創傷罪ヲ犯シタルヤモ計ラレス故ニ更ニ諸般ノ證據ニヨリテ事實ヲ認定スルノ必要アリトス

死者ノ親族ヨリ再審ノ訴ヲ爲シ上告裁判所ハ再審ノ原因アリト認メタル時ハ事件ヲ事實裁判所ニ移スナク原判決ヲ破毀スルニ止マルモノトス上告裁判所ハ再審ノ原因アルヲ認メタルハ原判決ノ不當ナルハ明白ナルヲ以テ其判決ヲ破毀ス可シ然レモ被刑人死亡シタル後ナレハ事件ノ審理ヲ爲サズ例ヘハ殺サレタリト認メタル人カ猶ホ存在スルヲ原因トシテ死者ノ親屬ヨリ再審ヲ求メタルニ上告裁判所ハ其人ノ存在スルヲ確認シタル時ハ死者ニ殺人罪ノ所爲アリト爲シタル原判決ハ之ヲ取消シ無罪ヲ言渡スヘシ若シ受刑者尙ホ生存スルハ他ノ犯罪アルヤモ知レサルヲ以テ事實裁判所ニ移送シテ再審ヲ爲サシム可キモ其人已ニ死亡シ自ラ防禦スルヲ得サルモノナレハ事實

ノ審理ヲ爲サズ只原判決ヲ破毀スルニ止マルモノナリ

再審ノ訴ハ公訴ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スモノナレモ其判決ニ附帶スル私訴ノ判決アルハアリ故ニ再審ノ原因アルヲ認メタルハ獨リ公訴判決ヲ破毀スルニ止マラス之ニ附帶スル私訴ノ判決ヲモ破毀シ其事件ヲ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移送ス蓋シ私訴ハ常ニ公訴ト運命ヲ共ニスルモノナレハ若シ公訴ニシテ無罪ナル時ハ私訴ニ付テ責任アリト言渡サレタル判決モ自ラ存在スルヲ得ヘカラサルハ自然ノ道理ナレハナリ

死者ノ親族ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタル時ハ公訴判決ヲ破毀スルニ止マルハ上ニ見タルカ如シ此場合ニ於テ第三百八條ハ私訴ノ事ヲ規定セス然ラハ私訴モ亦單ニ原判決ヲ破毀スルニ止マル可キカ公訴ニ付テ破毀ニ止マル所以ハ前陳述ノ如ク更ニ審理ヲ爲サント欲スルモ已ニ辯護權ヲ行用ス可キ本人ナキヲ以テナリ然レモ私訴ニ付テハ相續人アリテ充分ニ防禦ヲ爲スヲ得ヘキヲ以テ公訴ニ對スルト同一ニ論スルヲ得ヌ然ラハ私訴ニ付テ其事件ヲ原裁判ト同等ナル他ノ裁判所ニ移送スヘキカ如シ若シ送付スルトセハ公訴判決破毀ノ後

以附帶之公訴ヲ以テ上告ノ場合ニ於テ私訴ノミヲ破毀スル時民事
 部ニ移送スルト同一ニ之ヲ民事部ニ移送スヘキカ如シ然レニ再審ノ原由アル
 ニ依リ公訴私訴ニ付テ再審ヲ爲サシムルハ第三百二條ノ定メタル普通ノ場合
 ニシテ死者ノ親屬ヨリ再審ノ訴ヲ爲ス場合ニ於テハ私訴判決ヲ破毀スルノ明
 文ナキヲ以テ之ヲ破毀スルノ限ニ在リ只相續人ハ民事訴訟法ニ依リ再審ノ理
 由アルハ之ヲ爲スヲ得ルノミ
 再審ノ訴ニヨリ原判決破毀ノ後公訴私訴ニ付テ再審ヲ爲シ可キ旨ヲ言渡シテ
 移送シ而シテ之ヲ受ケタル裁判所ハ如何ナル手續ニヨリテ裁判ヲ爲ス可キヤ
 第三百七條項ニ其送附ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ
 爲ス可シ
 原裁判ヲ破毀シタル以上ハ事件ハ未タ嘗テ裁判ヲ經サルト同一ノ形狀ニ回復
 ス故ニ移送ヲ受ケタル裁判所ハ普通ノ事件ト同一ニ審理判決ヲ爲ス可キモノ
 ナラ然レニ或ル點ニ於テハ其裁判ハ恰モ上訴ヲ受ケタルト同一ニ制限ヲ受ク
 可キコトアリ乃チ原判決ハ上告人ノ不利益ニ變更ヲ爲スコトヲ得サルト是ナリ抑

再審ノ訴ヲ爲シ其原因アルト爲シタル時ト雖モ必ズシモ其結果無罪トナルノ
 ミオラス或ハ有罪トナリ且其實質タルハ原判決ヨリ重キ刑ニ該當スルコトナキ
 ニシモアラス然レニ再審ノ訴ハ被告ノ利益ノ爲メニ許シタルモノナルニ其訴
 ヲ爲シタルカ爲メ猶ホ不利益ノ結果ヲ受ケシムルハ法ヲ欲セサル所ナレハ法
 律ニ明記スル所ナシト雖モ不利益ニ變更スルコトヲ得ス
 移送ヲ受ケタル裁判所ニアリテハ普通事件ト同一ニ裁判ヲ爲スヲ以テ原則ト
 ス故ニ證據ノ取捨ニ付テモ亦原判決ニ羈束セラル、コトナシ即チ原判決ヲ採リ
 以テ有罪ノ資料ト爲シタルモノニ誤謬又ハ偽造アリテ其書類ヲ取除クモ他
 ニ有罪ノ證據ト爲ス可キモノアル時ハ之ニ依リ刑ヲ適用スルヲ得ヘシ然レニ
 之ヲ以テ被告人ニ不利益ノ變更アリタルモノト云フヲ得ス何トナレハ移送ヲ
 爲スハ無罪ノ言渡ヲ爲ス可シト命シタルモノニ非サレハナリ
 移送ヲ受ケタル裁判所ニ於テ再審ヲ爲スニ當リテ一ノ注意ス可キコトアリ例ヘ
 ハ原判決ハ三个ノ犯罪アリトシテ數罪俱發例ニヨリテ第一ノ犯罪行為ヲ重シ
 トシテ處斷シタルニ其第一第二ノ犯罪行為ニ付テ再審ノ原因アリトシテ原判

決ヲ破毀移送シタル場合ニ於テハ其之ヲ受ケタル裁判所ハ若シ第一第二ノ
 ニ付テ再審ヲナシ無罪ヲ言渡スヘシトスレハ原裁判ニ付テ執行ス可キ主文ハ
 消滅シテ爲メニ他ノ再審ニ原因ナカリシ罪ニ付テモ刑ノ執行ヲ爲スコト得サ
 ルノ不都合ヲ見ルニ至ル可シ凡ソ再審ノ訴ハ數罪俱發一ノ重キニ從テ斷處シ
 タル判決ニ對スル時ハ是レ判決主文ニ對スル攻撃ニシテ從テ判決全体ニ及ホ
 シ再審ノ破毀ハ乃チ全部ニ對スル破毀ナルヲ以テ其事件ノ移送ヲ受ケタル裁
 判所ハ事件全体ニ付テ審理判決ヲ爲サ、ル可カラス斯クスルハ再審ノ訴ヲ
 以テ攻撃セラレサル事實迄破毀セラレ其事實迄モ再審ヲ爲スハ甚ク故ナキニ
 似タリト雖モ斯クナザレハ有罪ニ對スル刑ノ執行ヲ爲スコト得サルノ不都
 合ヲ來スモノナレハ避ク可カラサルノ結果トシテ之ヲ再審スルモ決シテ妨ケ
 ナシニ今ノ行爲ニ付テ無罪ナリトテ他ノ有罪ノ行爲ニ對シテモ尙ホ刑ヲ免カ
 レシムルノ理由アル可カラス

再審ノ訴ニ對スル裁判ハ皆判決ヲ以テ之ヲ爲ス故ニ之ヲ公廷ニ於テ宣告スル
 ヲ必要トス若シ再審ノ結果無罪トナリタル時ハ其無罪ヲ宣告シタル判決ハ之

ヲ揭示シテ以テ社會公衆ニ示ス可キモノトス

第三百九條 再審ノ判決ト因リ無罪ノ言渡アリタルハ又ハ前條ノ場合ニ於
 テ破毀ノ言渡アリタルトキハ其者ノ名譽ヲ復スル爲メ其判決ヲ揭示ス可
 シ

死者ノ親族ヨリ再審ノ訴ヲ爲シ其原因アリトシテ原判決ヲ破毀シタルハ其
 上告裁判所ノ判決ハ其犯者ノ無罪ヲ言渡シタルモノナレハ之ヲ揭示シテ以テ
 名譽ヲ回復セシム可シ又原判決ヲ破毀シ以テ他ノ裁判所ニ移送ノ言渡ヲ爲シ
 タルハ無罪ヲ言渡シタルモノニ非ス故ニ之ヲ揭示ス可キモノニアラス而シテ
 其移送ヲ受ケタル後審理ノ上無罪ノ言渡ヲ爲シタル時之ヲ揭示ス可キモノナ
 リ而シテ其揭示ノ理由ハ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノ、名譽ヲ回復センカ爲メナリ
 今又例ヲ轉シ再審ノ判決ヲ以テ一罪ニ付テハ無罪ニシテ他ノ一罪ニ付テハ有
 罪ヲ宣告シタル時ハ其有罪トナリタルモノハ揭示ス可キモノニ非サルカ如シ
 善シ揭示ハ以テ名譽ヲ回復スルカ爲メニ爲スモノナルハ法律ノ明言セル所
 ナルニ有罪ノ判決ヲモ猶ホ揭示シ更ニ不名譽ヲ世上ニ發表シテ世人ノ記憶ヲ

惹起スルモノナレハナリ然レモ法律ハ判決ヲ揭示スヘシト命シタルヲ以テ判決全部ヲ揭示セサルヲ得ス

第七編 大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續

裁判所構成法第十五條第二項ニ依レハ大審院ハ左ノ犯罪ニ付キテハ第一審ニテ終審トシテ豫審及ヒ裁判ヲ爲スモノトス

第一、皇室ニ對スル重罪刑法第一章

第二、國事ニ關スル重罪刑法第二章

第三、皇族ノ犯シタル犯罪ニシテ禁錮又ハ更ニ重キ刑ニ處ス可キモノ

第一第二ノ犯罪ハ其性質犯罪中ニ於テ尤モ重大ナルヲ以テ特別權限ニ屬ス又第三ノ罪ハ其種類ニ定限ナシト雖モ被告人ハ我國ニ於テハ特別ノ位置ニアルヲ以テ充分ナル擔保ヲ以テ裁判ヲ爲サシムルカ爲メ特別權限ニ屬スルモノト

ス元來普通裁判所ト雖モ其裁判官ハ能力節義及ヒ公平ノ點ニ於テ欠タル所ナク何等ノ事件ニ對スルモ擔保ナキニ非ス然レモ法律ニ於テ審級ヲ置キ最上級

大審院ナリトシタルヲ以テ此重大ナル犯罪ニ付テハ特別トシテ大審院ノ權

限ニ屬セシメタリ而シテ大審院ハ此事件ニ付テハ第三審トシテ之ヲ裁判スルニ非ス全ク事實裁判所トシテ第一審ノ裁判ヲ下スモノナリ然ルニ大審院ノ上ニ上訴ス可キ法院ナキヲ以テ其裁判ハ終審ナリトス

大審院ノ特別權限ニ屬スル犯罪ノ種類ハ上ニ述タル如シ其罪ノ經重ニ付キ區別ヲ爲セリ皇室ニ對スル犯罪及ヒ國事ニ關スル犯罪ハ重罪ニ限リ特別權限ニ

屬ス故ニ是等ノ犯罪ト雖モ輕罪ハ普通裁判所ノ管轄ニ屬ス可シ又皇族ノ犯シタル罪モ禁錮以上ノ犯罪ニ限リ特別權限ニ屬シ禁錮以下ノ輕罪ハ普通裁判所

ノ管轄ニ屬スルモノナリ若シ大審院カ國事ニ關スル重罪又ハ皇族ノ犯シタル犯罪ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルモノトシテ管轄シタル後其審理ノ結果國事犯

ナルモ輕罪ナル時又ハ皇族ノ犯罪ナルモ禁錮以下ニ當ルモノナル時ハ普通裁判所ノ管轄ニ屬ス可キモノナリト雖モ管轄違ヲ言渡ス可キモノニ非ス恰モ地

方裁判所カ公訴ヲ受理シタル後地方裁判所管轄ニ屬ス可キモノニ非スシテ區

裁判所管轄ニ屬ス可キモノナリトスル時ハ之ニ管轄違ヲ言渡サスシテ第一審判決ヲ爲スト同一ノ理由ニ出テ第三百三十三條ノ規定ニ依最上級裁判所ハ下

刑事訴訟法
第七編
大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續

第七編 大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續

級裁判所よりモ擔保多シトスルヲ以テ事件ヲ下級裁判所ニ移スノ必要ナシ
 大審院ノ特別管轄ニ屬ス可キ事件ハ土地ノ管轄ニ關係ナキヲ以テ犯罪ノ地及
 ヒ被告入ノ所在地ノ如何ヲ問ハス凡テ之ヲ管轄ス從犯正犯ノ關係ニ付テハ管
 轄ニ關シ多少問題ヲ生スルコトアルヘシ夫レ普通裁判ニアリテハ第二十八條ニ
 依レハ從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトシ正犯數名アル時ハ
 其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトストアリ
 皇室ニ對スル罪及國事ニ關スル罪ノ從犯ハ此原則ニ從ハス何レモ皆大審院ノ
 管轄ニ屬ス可シ獨リ皇族ノ犯シタル禁錮以上ノ犯罪ニ關スル大審院ノ特別權
 限ハ犯罪ノ種類ニヨリテ定メタルニ非ス被告人ノ身分ニヨリテ定メタルモノ
 ナレハ正犯ハ普通裁判ノ管轄ス可キ犯罪ナルコトアル可シ然ルニ其皇族ハ從犯
 ナルヲ以テ普通裁判所ノ管轄ナリトスルルハ此大審院ノ特別權限ヲ設ケタル
 ノ精神ニ背馳ス故ニ第二十八條ハ第三項ヲ以テ裁判所構成法第五十條第二ニ
 記載シタル皇族ノ罪ニ付テハ其正犯從犯ハ身分ノ如何ヲ問ハス大審院ニ於テ
 之ヲ管轄スルモノナリト規定セリ

○大審院ハ上述ノ犯罪ニ付テハ獨リ審理判決スルノ裁判權ヲ有スルノミナラ
 ス豫審モ亦其管轄ニ屬ス然ラハ其豫審ノ運用ヲ惹起スヘキ犯罪ノ捜査モ亦下
 級裁判所檢事ニ委テスシテ檢事總長ヲシテ之ヲ爲サシメサルヘカラス
 第三百十條^{第三項} 裁判所構成法第五十條第二號ニ記載シタル大審院ノ特別權
 限ニ屬スル犯罪ニ付テハ檢事總長其捜査ヲ爲ス可シ
 檢事總長獨リ其捜査ノ任ニ當ルト雖モ元來檢事ハ同一体ナルヲ以テ地方裁判
 所ノ檢事區裁判所ノ檢事及ヒ司法警察官モ亦檢事總長ヲ補佐シ捜査ヲ爲スヘ
 シ
 同條第二項 地方裁判所區裁判所ノ檢事及ヒ司法警察官モ亦其犯罪ニ付キ
 捜査ヲ爲シ檢事總長ニ報告ス可シ
 本項ニハ控訴院ノ檢事ヲ記載セス故ニ其檢事ハ此犯罪ニ付キ捜査ヲ爲スノ職
 務ナシ蓋シ地方裁判所區裁判所ノ檢事及ヒ司法警察官ハ其犯罪アリタル地ト
 近接スルヲ以テ之ヲシテ捜査ノ補佐ヲ爲サシムル上ハ控訴院ノ檢事ヲモ加ヘ
 ルノ必要ナケレハナリ

右ノ檢察官ハ捜索ヲ爲シ犯罪ノ證據及ヒ犯人ヲ得ルモ直チニ起訴ヲ爲スノ權ナシ唯檢察總長ニ其結果ヲ報告スルニ止マルモノナリ其報告ニ因リテ捜索ヲ結了シタル上起訴ヲ爲ス者ハ獨リ檢察總長ナリトス通常ノ場合即チ非現行犯ニ付キテ起訴權ハ總長ニアルリミナラヌ下ニ見ル如ク第三十三條此特別管轄ニ屬スル事件ニ付テハ現行犯ノ場合ト雖モ檢察官及ヒ司法警察官ニ豫審處分ヲ行フコト許スモ起訴權ハ檢察總長ニアリ第三十三條ニ檢察總長ハ何レノ場合ニ於テモ起訴スヘキモノト認ムルハ豫審判事ヲ命スヘキコトヲ請求スヘシトアリテ其請求ハ即チ公訴ヲ起スモノナリ普通事件ニアリテハ現行犯ニ付テハ豫審處分ヲ行フタル檢察官ハ起訴ヲ爲スコトヲ得ルモ特別權限ニ屬スル事件ハ總テ重大ナルヲ以テ其權ナク起訴權アルハ獨リ總長ノミナリトス

現行犯ノ場合ニ於テハ普通事件ニ付テモ檢察官司法警察官ハ豫審處分ヲ爲スコトヲ得蓋シ其犯罪ヨリ生スル危害ノ大ナルト且速ニ着手セサレハ證據湮滅ノ恐アルニ依リ特別權限ニ屬スル事件ト雖モ現行犯ノ場合アルコト必然ナリ而シテ其場合ニ於テハ均シク檢察官及ヒ司法警察官ヲシテ豫審處分ヲ爲サシムルノ必要アリ

第三百十一條 前條ニ記載シタル犯罪ノ現行犯アル場合ニ於テ急速ヲ要スルハ地方裁判所區裁判所ノ檢察官及ヒ司法警察官ハ第四百十四條及ヒ第四百四十七條第一項ノ規定ニ從ヒ豫審處分ヲ爲スコトヲ得但豫審判事ニ通知スルコトヲ要セス

普通ノ事件ニ於テハ檢察官及ヒ司法警察官ハ現行犯ニ付テ豫審處分ヲ行フコトヲ得其處分ヲ行フハ急速ナル場合ナルヲ以テ豫審判事ヲ待タヌシテ着手ヲ爲シ豫審判事已ニ處分ニ着手スルニ至レハ檢察官ハ其以後ノ處分ヲ行フコトヲ得故ニ第四百十四條ハ其處分ニ着手スル前ニ豫審判事ニ通知スルコトヲ要ス然レモ特別權限ニ屬スル犯罪ニ付テハ普通事件ト同一ニ檢察官及ヒ司法警察官ハ第四百十四條第四百十七條ノ第一項ノ規定ニ從ヒ豫審處分ヲ行フコトヲ得ルモ未ダ通知ヲ爲ス可キ豫審判事ナキヲ以テ之ヲ通知スルコトヲ要セス

然ラハ檢察官及ヒ司法警察官ニ於テ豫審判事ニ屬スル處分ヲ行フタル時ハ如何ナル手續ヲ爲ス可キカ

第三百十二條 前條ノ場合ニ於テハ地方裁判所檢事ヨリ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ速ニ檢事總長ニ送致ス可シ

地方裁判所ノ檢事現行犯アルヲ知リテ豫審處分ヲ行フタル時ハ其處分ニ因リテ得タル證據及ヒ證據書類ニ意見ヲ添ヘテ速ニ之ヲ檢事總長ニ送附ス可ク若シ區裁判所檢事又ハ司法警察官ニ於テ現行犯ニ付キ豫審處分ヲ行フタル時ハ其證據書類ヲ地方裁判所檢事ニ送致シ該檢事ヨリ檢事總長ニ送致ス可キモノトス區裁判所檢事及ヒ司法警察官ノ行フタル處分ノ結果ハ別ニ規定ナシト雖モ檢事總長ニ送致ス可キモノハ地方裁判所檢事ナリト規定シアルニヨリテ明カナリ

如此檢事總長ニ於テ搜索ヲ爲シタル上ハ檢事總長ハ先ツ起訴ス可キモノナルヤ否ヲ判斷セサルヘカラス若シ起訴ス可カラサルモノト認メタル時ハ檢事ノ全權ヲ以テ其事件ヲ不問ニ附シ刑事上ノ訴訟ヲ起スヘカラス若シ大審院ノ特別權限ニ屬セサルモ下級裁判所ニ屬スルモノトスル時ハ事固ヨリ下級裁判所ノ檢事ニ屬スルヲ以テ之ヲ其移送シテ以テ起訴ヲ爲サシムヘシ若シ其事件ハ

大審院ノ特別權限ニ屬スルモノニシテ起訴ヲ爲ス可キモノト認メタル時ハ一切ノ書類ヲ該院ニ差出シ起訴ヲ爲スヘシ然レモ未タ起訴ヲ受ク可キ豫審判事ナキヲ以テ起訴ト同時ニ豫審判事ノ設置ヲ請求セサルヘカラス

第三百十三條 檢事總長ハ何レノ場合ニ於テモ其事件大審院ノ特別權限ニ屬シ且起訴ス可キモノト認メタルハ豫審判事ヲ命ス可キヲ大審院長ニ請求ス可シ

此請求ヲ受ケタルハ即チ起訴アリタルヲ以テ大審院ハ審理ニ着手セサルヘカラス其審理ノ第一着ハ大審院長ニ於テ豫審判事ヲ命スルヲナリトス而シテ豫審判事ハ大審院ノ判事中心ヨリ命ス可キカ將タ下級裁判所ニシテ其犯罪ノ場處ニ接近シタル裁判所ノ豫審判事ニ任命スルヲ得ルモノナルカ治罪法草接及ヒ治罪法ノ高等法院ニ關スル第八十六條ハ大審院刑事部ノ判事一名又ハ數名ヲ豫審判事ニ命スルノ規定アリシモ刑事訴訟法ニ於テハ特ニ此條ヲ刪除シタルノミナラス裁判所構成法第五十五條ハ大審院長ハ大審院ノ特別權限ニ屬ス可キ事件ニ付キ大審院ノ判事ニ豫審ヲ命ス可シ但シ便宜ニヨリ各地方裁判

所判事ヲシテ豫審ヲ爲サシムルコトヲ得ルモノトセリ
 大審院長ノ任命シタル豫審判事ニ於テ檢事總長ノ差出タル書類ニ依リテ事實
 ノ調査ヲ十分ナリトシ他ニ取調ヲ要スルコトナシト爲シタル時ハ訴訟記録ニ意
 見ヲ附シ大審院ニ差出ス可シ第三百四十四條若シ取調ヲ要スルハ普通ノ手續ニ依リ
 豫審ヲ爲スヘシ普通事件ニアリテ豫審判事ハ取調ノ結果ニヨリテ有罪ナリト
 認メタル時ハ公判ニ移スノ言渡ヲ爲シ若シ無罪ナル時ハ免訴ノ言渡ヲ爲スモ
 ノナルモ此特別事件ニ付テハ豫審判事ハ豫審決定ヲ爲スノ權力ナキヲ以テ公
 判ニ附スルノ言渡又ハ免訴ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス又普通事件ニシテ管轄ニ屬
 スル事件ニ非スト認ムルモ他ノ裁判所ノ公判ニ附スルノ言渡ヲ爲スコトヲ得
 ルモノニ非ス是等ノ言渡ハ皆大審院ノ爲スヘキモノトス
 豫審判事ヨリ訴訟記録ニ意見ヲ附シ差出シタル時ハ大審院ハ檢事總長ノ意見
 ヲ聞き先ツ其事件ノ公判ニ附ス可キヤ否ヤヲ決定スルモノトス第三百十五
 條第一項
 若シ大審院ニ於テ調査ノ上自己ノ特別權限ニ屬ス可キモノナリト認メタル時
 ハ其決定ヲ爲ス其決定ニ依リテ事件ハ大審院ノ公判ニ附セラル、モノナリ恰

モ普通ノ豫審終結決定ト同一ノ効力ヲ以テ其事件ハ公判ニ附セラル此故ニ其
 決定ヲ爲シタル判事ハ豫審終結ニ關與シタル判事ト同一ナルヲ以テ其後公判
 ノ判事トナリテ職務ヲ取ルコトヲ得ス法律上其職務ヨリ除斥セラル、モノトス
 可キナリ
 若シ大審院カ其事件ヲ地方裁判所又ハ區裁判所ノ權限ニ屬スルモノト決定シ
 タル時ハ管轄裁判所ヲ指定シ其事件ヲ其裁判所ニ送致ス可シ第三百十五
 條第二項此場
 合ニ於テハ大審院ハ豫審決定ヲ爲スニ非スシテ管轄裁判所ヲ指定シ事件ヲ送
 附シテ其裁判所ノ公判ニ附スルモノナリ故ニ管轄裁判所ニアリテハ管轄ノ指
 定ヲ受ケタルモノナルヲ以テ公判ヲ受クヘク管轄違ヲ言渡スヲ得ス
 以上ハ大審院カ特別權限ニ屬セサルモノト決定シ他ノ裁判所ニ移送スル時ノ
 手續ナリ若シ其事件カ特別裁判所ノ權限ニ屬スルモノト認メタル時ハ決定ヲ
 以テ管轄違ノ言渡シヲ爲ス可シ第三百十五條
 第二項本文例ヘハ大審院ハ豫審判事ノ差出
 シタル訴訟記録ニヨリテ調査シ檢事總長ノ意見ヲ聞キタル上事件ハ軍事裁判
 所ノ管轄ニ屬スルモノト爲シタル時ハ司法裁判所ノ權限外ニ屬スル事件ナル

ヲ以テ管轄裁判所ヲ特定スルノ限リニ在ラス故ニ大審院ハ決定ヲ以テ管轄違
 ノ言渡ヲ爲スヘキナリ
 若シ大審院ハ事件カ第六十五條第一乃至第六ノ場合ニアルモノト認メタル
 時ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲ス可キモノナリ第六十五條第三項
 以上述フル所ノ大審院ノ決定ハ普通事件ノ豫審終結ニ當ルモノナリ普通ノ豫
 審終結決定ニ對シテハ重罪公判ニ移スモノナル時ハ之ニ對シテ抗告ヲ爲スコ
 ヲ得ルモノナルモ此決定ニ對シテハ抗告ヲ許スノ正文ナキヲ以テ之ヲ爲スコ
 得ヌ第七十二條ニハ單ニ重罪公判ニ附スル決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ
 得ト記載シアルヲ以テ廣ク之ヲ適用シテ大審院ノ決定ニ對シテモ適用スルコ
 ヲ得ルモノ、如シト雖モ本條ハ豫審判事カ爲シタル決定ニ對シテ抗告ヲ許ス
 モノニシテ今予輩ノ講究スル所ノ決定ハ豫審判事ニ非スシテ大審院ノ決定ナ
 リトス故ニ其豫審ニ關スル正條ヲ適用スルコトヲ得ヌ治罪法第八十九條ヲ見ル
 ニ高等法院ノ裁判ニ對シテハ上訴ヲ許サ、ルヲ以テ原則ト爲ヌ大審院ノ特別
 權限ニ屬スル事件ニ付テハ決定ニ對シテ非サルヲ以テ控訴上告ヲ爲スコトヲ得

サルハ勿論又爲サント欲スルモ上級裁判所アルコトヲシ其裁判ノ性質上ヨリ云
 フ時ハ一ノ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノナルモ抗告ハ法律ニ特ニ許シタル場合ニ
 非サルハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノナルヲ以テ法律カ此決定ニ對シテ抗告ヲ許
 スノ明文ナキ以上ハ之ヲ許サ、ルコト自ラ明瞭ナリ
 大審院ニ於テ事件ヲ特別權限ニ屬スルモノト爲シタル上ハ公判ヲ開キ審理判
 決ヲ爲ス可シ而シテ其手續ハ普通事件ト異ナルコトナキヲ以テ本編ニ於テハ特ニ
 之ヲ規定セヌ第三百十六條ハ前數條ニ於テ特ニ之ヲ規定シタルモノヲ除ク外
 豫審公判ノ手續ハ第三編第四編ノ手續ヲ準用ストアリテ本編ハ普通ノ手續ト
 異ナルモノヲ規定シタルニ止マリテ特別權限ニ屬スル凡テノ事件ノ刑事訴訟
 手續ヲ定メタルモノニ非ス依テ公判ノ手續ノ如キハ別ニ本編ニ規定ナキヲ以
 テ普通事件ト同一ナルコトハ勿論ニシテ欠席判決ニ對スル故障及ヒ再審ノ如キ
 モ亦此特別權限ノ判決ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ルモノナリ
 畢リニ私訴判決ノ事ニ付テ一言センニ特別權限ニ屬スル公訴ニ附帶セル私訴
 ハ大審院ニ於テ審理判決スルコトハ勿論ナリ此特別事件ニ在リテハ大審院ハ普

通事件ニ於ケル如ク單ニ法律ノ點ニ付テ判決ヲ爲スニ非ズ事實裁判所トシテ審理ヲ爲スモノナレハ私訴ナリトテ他ノ裁判所ヲシテ審理セシムルノ要ナシトス然レモ私訴ノ結果ハ刑事訴訟法ノ規定ノミニ據ルヲ以テ足レリトセズ性々民事訴訟法ノ規定ニ依ルヘキモノアリ例ヘハ假差押ノ如キト必スナキニシモアラス是等ノ手續ハ民事訴訟法ニ據ルヘケレハ其法ノ定ムル裁判所ヲシテ之ヲ爲サシムルコトアルモノナリ

第八編 裁判執行、復権及ヒ特赦

第一章 裁判執行

刑ノ執行ハ判決確定ノ後ニ非スシハ爲スコトヲ得ス第三百七條民事訴訟法ニアリテハ裁判ノ假執行ヲ爲スコトアリト雖モ刑事訴訟法ニアリテハ其刑ノ輕重如何ニ係ハテス假ニ執行スル時ハ回復スルコト能ハサルヲ以テ其判決確定セサル間ハ執行ヲ許サハルモノトス而シテ如何ナル時期ニ於テ判決ハ確定スルモノナルヤ法律ニ許シタル上訴ヲ爲シ盡シテ其上訴ノ判決アリタルモ又上訴ヲ爲サハルモノニ付テハ上訴ス可キ期間ノ終了ヲ以テ確定ノ時ナリトス然レモ上訴ノ場

合ニ於テ上訴裁判所ノ判決ニ依リテ確定スルハ上告裁判所カ棄却ノ判決ヲ爲シ又ハ自ラ刑ノ適用ヲ爲シタル時ナリトス若シ破毀シテ事件ヲ他ノ下級裁判所ニ移送シタル時ノ如キハ未タ確定スルニ至ラス其事件ハ第二審ノ裁判所ニ屬シアルヲ以テ刑ノ執行ヲ爲スコトヲ得サルナリ控訴抗告ノ判決アリタル迄ハ未タ上訴ヲ爲シ盡シタルモノニ非サルヲ以テ確定ナキヤ論ヲ俟タス

○本章ノ表題ニハ裁判執行トアリ然ルニ裁判ト稱スルハ獨リ刑ヲ言渡シタル判決ノミナラズ無罪ヲ言渡シタル本按ノ判決本按前ノ判決及ヒ決定ヲモ包含スルモノナリ本章ハ是等ノ裁判ノ執行ヲ規定スルニ非ズ刑ノ執行之ニ附屬スル公訴費用及ヒ私訴判決ノ執行ヲ規定スルニ止ムルモノナリ故ニ第三百十七條ノ判決確定ノ後ニ非サレハ執行スルヲ得ストシタルハ刑ヲ言渡シタル判決ニ付テ云フモノナリ上訴裁判所ノ判決ニシテ棄却又ハ事件ノ移送ヲ言渡シタルモノハ其言渡ト同時ニ確定スルヲ以テ之ヲ執行スヘキハ勿論ナリ本按ノ判決ニシテ無罪放免ヲ言渡シタルモノニアリテハ判決確定ノ後ニ非サレハ執行スルコトヲ得サルノ法文ナシ然レモ控訴ノ期間及ヒ其申立ニ依リ執行ヲ停止ス

第二百五 上告ニ付テハ之下同シカラス其期間及ヒ申立ハ放免ノ言渡ハ尙ホ未
 確定中ニアリト雖モ執行ヲ爲スヘキモノトス第二百七 本案前ノ判決即チ管轄
 違又ハ公訴受理スヘカラサルノ申立ヲ却下シタル判決ハ控訴又ハ上告ヲ爲シ
 タル所ハ本案ノ辯論ヲ停止スル第二百八ヲ以テ其判決ノ確定セサル内ニ在リテ
 執行ノ實ナカルヘシト雖モ右ノ申立ヲ採用シタル判決ハ本案ノ判決ナレハ控
 訴ニ付テハ何レモ執行ヲ停止スルモ上告ニ付テハ公訴不受理ノ判決ハ執行セ
 ラル、モノトス何トナレハ其判決ハ放免ヲ言渡スモノナレハナリ決定ニ付テ
 モ豫審終結決定ノ如ク抗告ノ爲メ其期間又申立アル所ハ其執行ヲ停止スルト
 雖モ第二百七其他ノ決定ニシテ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキモノハ特ニ法律ニ執行停
 止ノ明文ナキ限りハ抗告期間内ニ在リテ決定ハ未タ確定セサルモノナルニ拘
 ラス之ヲ執行スルコトヲ得ルモノトス抗告ニ對スル決定ニ對シ更ニ抗告アリタ
 ル所モ亦上ト同一ナリトス

○前述ノ如ク刑ノ執行ハ判決確定以前ニ之ヲ爲スコトヲ得サルノ規定ヲ置ケリ
 其判決確定シタル後ニアリテハ何時ニ之ヲ執行スルコトヲ得ルモノナルヤ第三

百十九條ハ刑ノ言渡確定シタル時ハ直チニ之ヲ執行スルモノトセリ故ニ一般
 ニ於テハ判決確定スルヤ猶豫ナク執行ニ取掛ルコトヲ得然レモ左ノ例外アリト
 ス

第一、死刑ノ執行

第三百十九條ハ死刑ヲ除ク外刑ノ言渡ノ確定シタル時ハ直チニ執行ス可シ
 ト云フヲ以テ見レハ死刑ノ執行ハ例外ナルコトヲ知ルヘシ凡ソ死刑ハ刑罰ノ
 最モ重キモノニシテ且回復ス可カラサル結果ヲ生ス故ニ法律ハ其執行ニ付
 テハ特ニ鄭重ナル手續ヲ要シタリ刑法第十三條ニ死刑ハ司法卿ノ命令アル
 ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ストアリ又刑事訴訟法第三百十八條ニハ死刑ノ
 言渡確定シタル時ハ檢事ヨリ速カニ訴訟記録ヲ司法大臣ニ差出ス可シ司法
 大臣ヨリ死刑ヲ執行ス可キ命令アリタル所ハ三日内ニ其執行ヲ爲ス可シト
 アリ故ニ死刑ノ言渡確定シ再審ノ訴ヲ爲スモノアラサル時ハ檢事ヨリ訴訟
 記録ヲ司法大臣ニ差出シテ其命令ヲ待ツ可シ司法大臣ハ其訴訟記録ニヨリ
 テ特赦非常上告及ヒ再審ヲ爲ス可キモノニ非サルヤ否ヲ審査シ其特例ニ依

ルハキモノニ非スト認メタルハ執行命令ヲ下ス可キモノナリトス此命令
 アリタル時ハ執行官ハ三日内ニ死刑ノ執行ヲ爲スコシ
 此三日内モ亦或場合ニ於テハ延期スルコトアリ刑法第十四條ニ大祀令節國祭
 ノ日ハ死刑ヲ行フコト得ストアリ又第十五條ニ死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女
 懐胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハストセ
 リ故ニ司法大臣ヨリ執行命令アリタルハト雖モ以上ノ場合ニ於テハ三日内
 ニ之ヲ行フコト得サルナリ

第三 罰金

刑法第二十七條ニ日夕罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ納
 完セザル者ハ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フト然ラハ罰金ハ刑ノ言
 渡確定後直チニ徵收スルコトヲ得サルモノニシテ一个月ハ受刑人ノ權利ニシ
 テ此一个月間ハ執行ヲ爲スコトヲ得サルモノトス第四十二條ノ附加罰金ニ付
 テモ亦同シ

刑ノ執行ハ其言渡確定シタルヨリ直チニ執行ヲ爲スコシト云フハ專ラ主刑ニ

付テ云フモノナリ附加刑ニアリテハ或ハ主刑ノ終リタル時ヨリ執行スルモノ
 アリ監視ノ如キ是ナリ刑法第三十九條

○刑ノ執行ハ檢事ノ職務ニ屬スルヲ以テ若シ体刑ノ言渡ヲ受ケ其執行ヲ免カ
 レタルモノアル時ハ執行ノ爲メニ檢事ハ逮捕狀ヲ發スコシ其逮捕狀ハ勾留狀
 ト同一ノ効力ヲ有スルモノナリ第三百九條故ニ此檢事ノ發シタル逮捕狀ハ管ニ受
 刑人ヲ逮捕スルニ止マラスシテ監獄ニ引致勾留スルノ効力ヲ有スルモノトス
 闕席判決ノ場合ニ於テハ判決執行ノ爲メニ檢事ヨリ逮捕狀ヲ發スルコトアリ此
 場合ニ於テモ逮捕狀ノ効力ハ勾留狀ト同一ニ勾引留置スルコトヲ得蓋シ刑事訴
 訟法ニ於テハ人ヲ引致勾留スルノ權ハ豫審判事ニアルヲ以テ通例トス檢事ヨ
 リ發スル所ノ逮捕狀ハ法律ニ於テ勾留狀ト同一ノ効力ヲ附スルニ非スンハ勾
 留スルコトヲ得ス故ニ法律ハ特ニ其効力ヲ明示ス

○刑ノ執行ハ裁判所ノ職掌ニ非スシテ檢事ノ職務ニ屬スルモノトス裁判所構
 成法第六條ニ於テ各裁判所ニ檢事局ヲ設置シ檢事ハ刑事ニ付キ判決ノ適當ニ
 執行セラル、ヤ否ヲ監視ストアリ又刑事訴訟法第三百二十條ニ刑ノ執行ハ其

刑ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事又ハ上告裁判所ヨリ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢事
 ノ指揮ニ因リ之ヲ爲ス可シトアリ故ニ現ニ刑ヲ執行ハ皆檢事ノ監視及ヒ指揮
 ノ下ニアリテ之ヲ爲スモノナリ
 而メ其檢事ハ如何ナル裁判所ノ檢事ナルカ法律ハ其刑ヲ言渡シタル裁判所ノ
 檢事ナリト云ヘリ故ニ第一審ノ判決確定シテ之ヲ執行ス可キ時ハ其刑ヲ執行
 スルモノハ第一審裁判所ノ檢事ナルヲ論テ俟タス若シ控訴ヲ爲シ控訴裁判所
 ニ於テ原判決ヲ認可シタル時ハ均ク第一審裁判所ノ檢事其執行ヲ爲ス可キナ
 リ蓋シ此刑ヲ言渡シタル裁判所トハ執行ス可キ主文ヲ言渡シタル裁判所ノ謂
 ニシテ第二審ハ事實ヲ覆審シタルニ相違ナキモ其執行ス可キ主文ヲ言渡シタ
 ルモノニ非ス故ニ第二審裁判所ヲ以テ刑ヲ言渡シタル裁判所ト云フヲ得サ
 レハナリ反之第二審裁判所ニ於テ第一審裁判所ノ判決ヲ取消シ更ニ刑ヲ執行
 ス可キ主文ヲ言渡シタル時ハ乃チ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ第二審裁判所ナルヲ
 以テ其裁判所ノ檢事ニ於テ執行ヲ司ル可キナリ
 上告裁判所ニ於テ上告ヲ棄却シタル時ハ其上告裁判所ハ刑ヲ言渡シタル裁判

所ニ非サルヲ勿論ニシテ其刑ノ執行ヲ司ルモノハ前陳述シタルト同一ノ區別
 ニ從ヒ第一審裁判所若クハ第二審裁判所ノ檢事ナリトス然レモ上告裁判所ニ
 於テ原判決ノ擬律ヲ更正シ執行ス可キ主文ヲ言渡スヲアリ此場合ニ於テ刑ノ
 執行ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事之ヲ司ル可シト云フ原則ニ從ヘハ上
 告裁判所ノ檢事ナリトス然レモ如此スル時ハ實際上非常ノ不都合ヲ生ス何ト
 ナレハ上告裁判所ハ被告人ノ出頭ヲ要セサルモノナレハ被告人ハ原裁判所ノ
 監獄ニ在リ然ルヲ上告裁判所ノ檢事其執行ヲ司ルモノトセハ執行ノ爲メニ大
 審院ノ檢事長崎若クハ函館ノ如キ遠隔ノ地ニ出張セサルヲ得ヌ出張セストセ
 ハ被告人ヲ執行ノ爲メニ長崎若クハ函館ヨリ遞送セシメサルヲ得サルナリ故
 ニ第三百二十條ニ刑ノ執行ハ上告裁判所ヨリ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢事ノ指
 揮ニ因リ之ヲ爲ス可シト規定シタリ然ラハ執行スヘキ主文ヲ言渡シタルルハ
 上告裁判所ハ其裁判所控訴院又ハ他ノ裁判所檢事ニ執行ヲ命スルモノトス實
 際ニ於テハ上告裁判所ノ檢事ニ命シ其檢事ヨリ控訴院又ハ裁判所ノ檢事ニ命
 シ執行ヲ司ラシムルヲ以テ便宜ニシテ且事物ノ順序ヲ得ルモノナリ

罰金科料訴訟費用及ヒ沒收物品追徴金ハ檢事ノ命令ニヨリ之ヲ徵收ス第三十條
 第三 罰金科料沒收物品追徴金ノ徵收ハ乃チ主刑又ハ附加刑ノ執行ナルヲ以テ
 檢事ノ司ル所ニシテ執行官更ハ檢事ノ指揮ニヨリテ之ヲ實行スルモノナリ訴
 訟費用モ亦刑ノ執行ニ附帶スルモノナレハ檢事ノ命令ニヨリテ徵收スルハ當
 然ナリ然ルニ第三百二十三條ニ依レハ訴訟關係人ニ辨濟ス可キ訴訟費用ニ付
 テハ其判決ヲ執行ハ民事訴訟法ニ從フ可キモノト規定シタリ凡ソ公訴費用ハ
 刑法附則ニ定ムル如ク證人鑑定人等ニ辨濟ス可キモノナルヲ以テ訴訟關係人
 辨濟スヘキ費用ニ非ス故ニ民事訴訟法ノ規定ニ從ハシムルモノハ私訴費用
 ノ執行ニシテ公訴費用ノ執行ニ非ストス
 沒收シタル物品ハ或ハ其存在ノ以テ社會ニ危害ヲ與フルモノアリ例ハ偽造
 貨幣及ヒ人ヲ殺スルガ爲メ用非又ハ用非ト爲シタル爆發物ヲ裝置セル器械ノ
 如キハ之ヲ沒收シタル後ハ破壊又ハ廢棄シテ存在セシメサルヲ要ス其破壊又
 ハ廢棄ス可キ沒收物品ハ檢事之ヲ處分ス可キナリ第三百二十
 條第二項
 公訴附帶ノ私訴ニ對シテ言渡シタル判決ノ執行ハ賠償ニ付テハ民事訴訟法ニ

從フ可キヲ第三百二十三條ニ於テ明記シテ贓物ノ返還ヲ言渡シタル判決
 ノ執行ニ付テハ明記ナキモ民事訴訟法ニ從フ可キナリ何トナレハ其訴訟ハ一
 ノ民事ノ訴ニシテ便宜ノ爲メニ刑事ノ訴訟ニ附帶シテ判決シタルコトハ損害ノ
 賠償ト同一ナレハナリ
 〇己ニ刑ノ執行ヲ終了シタル時ハ其終了シタルコトヲ證明シ置クヲ必要ナリト
 ス故ニ第三百二十一條ハ死刑ノ執行ニ付テハ裁判所書記其始末書ヲ作り刑ノ
 執行規定ニ從ヒ立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印ス可シト云ヘリ死刑ハ尤
 モ重大ナル刑ナルヲ以テ特ニ裁判所書記ヲシテ之ヲ證明セシメ置クナリ其他
 ノ体刑ニ付テモ刑ノ執行セラレタルコトヲ證明シ置クノ必要ナルモ敢テ裁判所
 ノ吏員ヲ煩ハスヲ要セス刑ノ執行ヲ受ク可キ監獄署ノ帳簿ニ被刑人ヲ登錄シ
 タルヲ以テ其執行ヲ證明シ得ルナリ又罰金過料沒收物品追徴金等ニ至リテハ
 檢事ノ命令ニ依リ執達吏ニ於テ之ヲ執行スルカ故ニ執達吏ノ作りタル文書ニ
 以テ證明シ得ルモノトス
 〇刑ハ裁判確定後ニ其執行ヲ見ルモノナルヲ以テ其判決自体ニ對シテハ再審

及ヒ非常上告ヲ以テ攻撃スルノ外不服ヲ稱フルコトヲ得可キモノニ非スト雖モ刑ノ執行ニ對シテハ其刑ヲ受クル者ヨリ疑義又ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ルモノトス

疑義ノ申立ハ第三百二十二條ノ規定スル所ニシテ該條ニ依レハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者其言渡ニ付キ疑義ノ申立ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ決定ス可シトアリ疑義ノ申立トハ執行官ノ處分ヲ不當ナリトシテ其處分ノ更正ヲ求ムルモノニ非ス判決ノ意義ニ疑ヲ生シタルニヨリ其言渡ノ解釋ヲ求ムルニ過キササルモノナリ本條ニハ其言渡ニ付キ疑義ノ申立トアルヲ以テ判決中何レノ部分ニ付テモ尙モ疑アル時ハ申立ヲ爲シテ決定ヲ受クルコトヲ得ルモノ、如シト雖モ決シテ然ラス判決ノ理由ハ確定前ニアリテハ若シ明瞭ヲ欠ク時ハ上訴シテ之ヲ更正スルノ道アリト雖モ已ニ確定シタル以上ハ其理由ニ付テ受刑人カ意義ヲ解セサルトテ疑義ノ申立ヲ爲スヲ得ス然ラハ疑義ノ申立ハ判決ノ主文ニ關スル疑義ナリトス之ヲ細別スレハ主文ヲ以テ言渡シタル刑ノ性質範圍及ヒ其刑ヲ受ク可キ人ニ關スル解釋ヲ求ムルモノナリ若

シ判決中ノ如何ナル部分ニ於テモ疑義アル時ハ申立ヲ爲シ得ルモノトスル時ハ裁判所カ法律ノ解釋ヲ誤リタルモノ如キ被刑人ハ疑義ヲ生シ之ヲ論難シテ止マサルヘク決定ヲ與フヘキ裁判所モ其論旨ヲ相當ナリトセサルヲ得ス然レモ最早其判決ハ更正スヘカラサレハ其説明ヲ爲スモ刑ヲ受ケタル者ニ在リテハ何等ノ利益アルコトナカルヘシ例ヘハ茲ニ輕懲役八年ニ處シタル一判決アリ之ヲ執行スルニ當リ被刑人ハ疑義ノ申立ヲ爲シタリ其判決書ヲ見ルニ事實理由ノ部ニハ被告ハ某年月日ノ夜某甲某ノ居室ノ兩戸ヲ毀テ之ヨリ竊カニ家内ニ入りタルニ某甲某ハ熟睡シテ覺ラサルヲ幸ヒトシ一室ニアル棚ヲ明ケ兼テ某甲某ハ其内ニ納メ置キタル衣類ニ點ヲ取リ元ト侵入シタル處ヨリ出テ立去リ翌日其衣類ヲ或ル人ニ賣却シタルヨリ事發覺シタルモノナリトアリテ之ニ法律ヲ適用スルニ至リテハ被告ノ所爲ハ人ヲ脅迫シ財物ヲ強取シタル者ナルヲ以テ刑法第三百七十八條ニ依リ處斷スヘキモノナリトノ理由ヲ附シテ輕懲役八年ニ處シタリ此判決タルヤ何レヨリ見ルモ理由ノ齟齬アルカ擬律錯誤アルカ疑義ヲ生スルハ當然ナルモ確定前ニ在リテハ之ヲ攻撃スルコトヲ得ヘキモ確定ノ

今日に至リテハ之ヲ如何トモスルヲ得ス故ニ疑義ノ申立ヲ爲スモ決定ヲ與フヘキ限リニ在ス輕懲役八年ト云フ刑ノ性質及ヒ區域ハ判然タルヲ以テ之ヲ執行スヘシ申立ハ要スルニ判決ノ理由ニ對スルモノナルヲ以テ其効ナカルヘシ

第二審第三審ノ判決ニシテ控訴又ハ上告ヲ棄却シタル判決ハ主文ニ對シテ疑義ヲ生スルコトアルヘシ例ヘハ上告ノ判決ニシテ原判決ヲ破毀シタルモノナルカ將タ上告ヲ棄却シタルモノナルヤ明瞭ナラサル時ノ如キ是ナリ此場合ニ於テハ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得可シ何トナレハ明瞭ヲ欠キタルハ執行スヘキ判決主文ノ存廢ニ直接シタルモノナレハナリ

○異議ノ申立ニ付テモ第三百二十二條ニ之ヲ規定シ刑ノ言渡ヲ受ケタル者其執行ニ付キ異議ノ申立ヲ爲シタルハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ決定ス可シト云ヘリ此異議ノ申立ハ執行處分ヲ不當ナリトシテ更正ヲ求ムルモノナリ例ヘハ被告人ハ刑期計算ニ付テ刑法第五十一條ニ依リ前判宣告ノ日ヨリ起算シテ刑ヲ執行シタルハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ此異議モ亦其區域ハ刑ノ性質範圍及ヒ刑ヲ受ク可キ人ニ止マルモノトス其執行スヘキ判決ノ

理由等ニ不服ナリトテ異議ヲ申立ツルコトヲ得可キモノニアラス

○疑義及ヒ異議ノ申立ニ對シ決定スルモノハ第三百二十二條ニ明記スル如ク刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ナリトス而シテ第三百二十條ニ於テ解釋シタル如ク刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所トハ執行ス可キ判決主文ヲ言渡シタル裁判所ナリトス故ニ上訴棄却ノ言渡ヲ爲シタル控訴裁判所及ヒ上告裁判所ハ其内ニアリトセス

疑義又ハ異議ニ對スル決定ハ如何ニ之ヲ爲ス可キモノナルカハ法律ニ於テ一モ規定スル所ナシ故ニ裁判所ハ疑義又ハ異議ノ申立アルヲ幸ヒトシ判決ヲ變更スルカ如キノ弊ナキヲ保シ難シ然レモ此決定ハ裁判ヲ變更スルコトヲ得ヘキモノニ非サルコトハ勿論ナリ決定ヲ爲スヘキ裁判所ハ判決ノ意味ヲ解釋スルニ止マサルヘカラス極端ノ例ヲ擧シレハ判決主文ニ執行スヘキ刑ノ明示ナキモノアリトセンカ其判決ノ主旨ハ無罪放免ヲ言渡スニ非サルヲ以テ刑ヲ科スルノ主意ナルコト明カナリト雖モ執行官ニ於テ其刑ヲ按出スルヲ得ス然ルニ刑ヲ執行シタルニ依リ異議ノ申立アリタルハ裁判所ハ執行スヘキ刑ナシトノ決

定ヲ與ヘサルヘカラス若シ刑ヲ定メテ決定スルカ加キコアラハ是レ判決ヲ解
 釋スルニ非スシテ判決ヲ爲スモノナリ
 然レモ實際ニ於テ困難ナル問題ヲ生スルハ數罪俱發ノ例ニ依リ數罪中一ノ重
 キニヨリテ處斷シタル判決ノ執行ニアリトス今茲ニ一人ノ被告人ニ三罪併發
 シ一ノ判決ヲ以テ數罪俱發例ニ從ヒテ處斷シ其内ノ甲罪ヲ尤モ重シト爲シ重
 禁錮一年ニ處シタリ而シテ其後甲罪ニ對スル刑乃チ重禁錮一今年ノ刑ハ非常上
 告ノ結果又ハ大赦等ニヨリテ消滅シタルハ判決ニハ已ニ執行スヘキ主文ナ
 シ然レモ他ノ二罪ニ對スル判決ハ存在セリ然ラハ執行官ハ其存在スル刑ヲ採
 リテ以テ執行スルコトヲ得ルヤ若シ之ヲ執行スルコトヲ得ルモノトスレハ刑法第
 百條ハ執行處分ヲ規定シタルモノニシテ裁判所ハ數罪アレハ其各罪ニ付テ刑
 ヲ科シ其一ノ重キヲ執行スルハ執行官ニアリトセサルヲ得ス反之刑法第百條
 ノ一ノ重キニ從テ處斷スト云フハ裁判所ニ命シタル法條ナリトセハ執行官ニ
 於テハ其一ノ重キ刑ヲ撰シテ執行スルコトヲ得ス依テ前例ノ如クニ一ノ重シト
 爲シタル刑ヲ消滅シタル時ハ他ノ罪ニ付テハ刑ノ執行ヲ爲スコトヲ得サルモノ

ト曰ハザルヲ得ス然レモ刑法ノ所謂一ノ重キニ從テ處斷スト云フハ其一ノ重
 キヲ執行スルノ意ニ非ス重キニ從テ判決ヲ爲スヘキノ意ナリ故ニ一ノ重キモ
 ノトシテ處斷シタル罪カ後日ノ事情ニヨリテ消滅シ從テ執行ス可キ刑モ亦消
 滅シタル時執行官カ他ノ罪ニ對スル刑ノ内一ノ重キヲ選ヒ執行セントスルニ
 當リ被告人之ニ不服ヲ唱ヘタルニ於テハ刑ヲ言渡シタル裁判所ハ重キモノヲ
 撰シテ執行ヲ爲ス可キモノト決定スルコト能ハス何トナレハ其決定ハ判決ヲ解
 釋スルモノニ非スシテ新タニ判決ヲ爲スモノナレハナリ異議ニ對スル決定ハ
 執行スヘキ刑ノ性質範圍ヲ解釋スルニ外ナラス
 以上ニ論シタル所ハ判決ニ各罪ニ付テ執行スルコトヲ得可キ刑ヲ定メサル場合
 ナリ例ヘハ三ノ罪アリテ一ノ判決ニヨリテ處斷シ甲罪ハ重禁錮一年乙罪ハ
 重禁錮六個月丙罪ハ重禁錮三個月トアリテ其甲罪ヲ重シトシテ處斷シ其後ニ
 於テ甲罪ハ無罪トナリタル時ニ於テモ前述ノ如ク決定ヲ以テ執行スヘキ刑ヲ
 定ムルヲ得ス況ヤ原判決ハ乙丙罪ニ付テハ刑ヲ定メス只一ノ重キモノト爲シ
 タル甲罪ニ對シテノミ刑ノ範圍罰金ノ高ヲ定メタル場合ニ於テ甲罪ノ刑消滅

シタルルハ執行ス可キ刑ナシト曰ハサルヲ得ス若シ執行官カ此場合ニ於テ丙罪ニ適用ス可キ法律ニ定メタル刑ノ範圍ハ乙罪ノ刑ノ範圍ヨリ廣キヲ以テ丙罪ヲ重シト爲シテ刑ヲ執行スルト假定センカ被告人ヨリ異議ノ申立ヲ爲ス時ハ裁判所ハ執行スヘキ刑ヲシテ決定ヲ下スノ外ナカル可シ治罪法原案第六百三十二條ヲ見ルニ疑義又ハ異議ノ申立ヲ受ケタル裁判所ハ判決ニ明記シタル法條ニ掲載シタル刑ヨリ他ノ刑ノ性質ヲ定ムルヲ得ヌ又刑ノ範圍カ法律上同一ナラサル時ハ解釋ヲ以テ最短期最下額ノ刑ノミヲ適用ス可シト云ヘリ其意ハ執行ス可キ刑ノ判決ニ定メアラサルハニ其刑ヲ定メテ決定ヲ爲スト云フニ非ス執行スヘキ刑アルモ其性質及ヒ範圍ニ付テ異議又ハ疑義ヲ生シタルハ判決ニ明記セル法律ニ定メタル刑ノ性質ニ依リテ之ヲ定メ又範圍ハ被告人ノ利益ノ爲メニ定メテ曰ト云フニ外ナラス刑事訴訟法ニアリテ一モ此規定ニ類似ノモノアルヲナシ左レハトテ疑義若クハ異議ノ申立ニ對シテ裁判所ノ決定ヲ以テ新タナル刑ヲ言渡スヲ得ルモノニ非ス故ニ判決ニ執行スヘキ刑ナキニ至リタルハ決定ヲ以テ架空ニ刑ヲ定ムルヲ得ヌ執行ス可キ判決ナシト

爲サ、ルヲ得ヌ
 ○疑義又ハ異議ニ對スル決定ニ對シテハ抗告ヲ申立ルヲ得第三百二十此抗告ハ上訴ノ部ニ於テ講究シタル抗告手續ニ於テ爲ス可キモノナルヲハ勿論ナリ此疑義異議ニ對スル決定ハ其實判決ト殆ト同一ノ結果ヲ被告人ニ及ボスモノニシテ事頗ル重大ナルカ故ニ茲ニ上訴ヲ爲スヲ許シタルナリ
 ○疑義又ハ異議ノ申立ヲ爲スヲ得ル者ハ刑ノ言渡ヲ爲ケタル者ノミナリトス故ニ檢事ハ此申立ヲ爲スヲ得ヌ何故ニ法律ハ檢事ニ此權利ヲ附與セザルカ執行ノ異議ハ其執行ヲ受ケル者ニ於テ不服ナルカ故ニ生スルモノナリ然ルニ檢事ハ執行ヲ受ケル者ニ非スシテ自ら刑ヲ執行スルモノナレハ異議ヲ申立ツルノ必要ナシ然レニ免訴ヲ言渡シタル判決ヲ執行ス可キ場合ニ於テハ檢事ヨリ異議ヲ申立ツル場合アルヲ得ルモノ、如シ例ヘハ判決ノ理由ニ依レハ甲者コソ放免トナル可キニ主文ニヨリテ見レハ乙者ヲ放免ストアルモノ如キ是ナリ然レニ其執行ハ檢事ノ爲ス所ナレハ自己ノ所爲ニ對シテ自ら異議ヲ申立ルヲ得ヘカラス此場合ニ於テハ甲者ハ或ハ執行ニ對シテ異議ヲ申立ルヲ

得ヘキナリ故ニ第三百二十二條ハ一ニ刑ノ言渡ヲ受タルモノハミニ疑義異議
 ノ申立ヲ許シ檢事ニハ毫モ其權利ヲ附與セサルナリ
 疑議ノ申立ニ至リテハ獨リ刑ノ執行ヲ受クルモノハミ之ヲ爲スノ必要アルニ
 非ス檢事モ亦執行ヲ爲サントスルニ當リ判決ニ明瞭ヲ關キ疑義ヲ生スルコトヲ
 免カレスル場合ニ於テハ檢事ニモ疑義ノ申立ヲ許スヘキカ如シ然レモ第三
 百二十二條ニハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者其言渡ニ付キ疑義ノ申立云云トアリテ
 申立ヲ爲ス者ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ限定セリ故ニ檢事ニ此申立ヲ爲スノ
 權アリトハ解釋スルヲ得ス蓋シ判決ノ執行ハ檢事ノ職權ニ屬スルヲ以テ刑ノ
 範圍性質及ヒ被刑人ノ何人ナルカハ檢事カ判決ニ解シテ定ムル所ナリ其之ヲ
 定メ執行スルニ當リ始メテ疑義ヲ生スルモノナレハ其申立ヲ爲スヘキハ被刑
 人ニシテ檢事ハ之ヲ申立ツヘキ地位ニ在ルモノニ非ス寧ロ此申立ニ付キ對手
 人ノ位置ニ在ルモノハナレハナリ
 ○疑義又ハ異議ノ申立アリタル所ハ刑ノ執行ヲ停止スヘキモノナルカ法律ニ
 於テ停止スルノ明文ナクハ何レノ刑ニテモ其執行ハ此申立ノ爲メ妨止セラ

ル、ナキカ如シ獨乙刑事訴訟法第四百九十條ニ依レハ疑義異議ノ申立アリ
 タルカ爲メ執行ヲ停止セズ然レモ裁判所ハ執行ノ停止又ハ中斷ヲ命スルノ權
 能ヲ有スルモノトセリ一般ニハ執行ヲ停止セサルヲ以テ相當ナリトス何トナ
 レハ此申立ハ判決ノ確定ヲ動カスモノニ非サレハナリ然レモ死刑ノ如キ回復
 スヘカラサル結果ヲ生スルモノニ至リテハ疑義異議アルニ拘ラス之ヲ執行ス
 ルニ於テハ此申立ハ何ノ爲メニ許シタルカ其法意ヲ解スル能ハサルヘシ故ニ
 如斯刑ニ付テハ裁判所ニ停止ヲ命スルノ權アリトスヘキナリ禁錮ノ如キ刑ニ
 付テハ之ヲ執行スルモ疑義異議ノ申立ニ對スル決定ニ依リ變更スルヲ得ヘケ
 レハ執行ヲ停止スルノ必要ナシ

第二章 復權

復權ノ制ハ被刑人ノ善行ニ復スルコトヲ獎勵スルノ目的ニ出テタルモノナリ刑
 ノ結果ニヨリテ公權ヲ喪失シタルモノハ如何ニ過ヲ悔ヒ行ヲ改ムルモ終身良
 民ト齒スルコトヲ得ストセンカ其人ノ失望ハ却テ自棄ノ念慮ヲ惹起シ更ニ一層
 ノ惡事ヲ爲スコトヲ意ニ介セサルニ至ラン故ニ社會公益上ノ必要ヨリシテ復權

得ヘキナリ故ニ第三百二十二條ハ一ニ刑ノ言渡ヲ受タルモノハミニ疑義異議
 ノ申立ヲ許シ檢事ニハ意モ其權利ヲ附與セサルナリ
 疑議ノ申立ニ至リテハ獨リ刑ノ執行ヲ受タルモノハミ之ヲ爲スノ必要アルニ
 非ス檢事モ亦執行ヲ爲サントスルニ當リ判決ニ明瞭ヲ闕キ疑義ヲ生スルヲ
 免カレスル場合ニ於テハ檢事ニモ疑義ノ申立ヲ許スヘキカ如シ然レニ第三
 百二十二條ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者其言渡ニ付キ疑義ノ申立云云トアリテ
 申立ヲ爲ス者ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ限定セリ故ニ檢事ニ此申立ヲ爲スノ
 權アリトハ解釋スルヲ得ス蓋シ判決ノ執行ハ檢事ノ職權ニ屬スルヲ以テ刑ノ
 範圍性質及ヒ被刑人ノ何人ナルカハ檢事カ判決ニ解シテ定ムル所ナリ其之ヲ
 定メ執行スルニ當リ始メテ疑義ヲ生スルモノナレハ其申立ヲ爲スヘキハ被刑
 人ニシテ檢事ハ之ヲ申立ツヘキ地位ニ在ルモノニ非ス寧ロ此申立ニ付キ對手
 人ノ位置ニ在ルモノハナレハナリ
 ○疑義又ハ異議ノ申立アリタルハ刑ノ執行ヲ停止スヘキモノナルカ法律ニ
 於テ停止スルノ明文ナケレハ何レノ刑ニテモ其執行ハ此申立ノ爲メ妨止セラ

ルハナキカ如シ獨乙刑事訴訟法第四百九十條ニ依レハ疑義異議ノ申立アリ
 タルカ爲メ執行ヲ停止セス然レニ裁判所ハ執行ノ停止又ハ中斷ヲ命スルノ權
 能ヲ有スルモノトセリ一般ニハ執行ヲ停止セサルヲ以テ相當ナリトス何トナ
 レハ此申立ハ判決ノ確定ヲ動かサスモノニ非サレハナリ然レニ死刑ノ如キ回復
 スヘカラサル結果ヲ生スルモノニ至リテハ疑義異議アルニ拘ラス之ヲ執行ス
 ルニ於テハ此申立ハ何ノ爲メニ許シタルカ其法意ヲ解スル能ハサルヘシ故ニ
 如斯刑ニ付テハ裁判所ニ停止ヲ命スルノ權アリトスヘキナリ禁錮ノ如キ刑ニ
 付テハ之ヲ執行スルモ疑義異議ノ申立ニ對スル決定ニ依リ變更スルヲ得ヘク
 レハ執行ヲ停止スルノ必要ナシ

第二章 復權

復權ノ制ハ被刑人ノ善行ニ復スルヲ獎勵スルノ目的ニ出テタルモノナリ刑
 ノ結果ニヨリテ公權ヲ喪失シタルモノハ如何ニ過ヲ悔ヒ行ヲ改ムルモ終身良
 民ト齒スルヲ得ストセンカ其人ノ失望ハ却テ自棄ノ念慮ヲ惹起シ更ニ一層
 ノ惡事ヲ爲スヲ意ニ介セサルニ至ラン故ニ社會公益上ノ必要ヨリシテ復權

ノ制度ヲ設ケ刑ニ依リテ喪失シタル公權及ヒ刑ニ依リテ生シタル不能力ヲ回復セシム

公權ヲ剝奪セラレタル者復權ヲ得ルニハ刑法第六十三條ノ規定ニ從ヒ左ノ條件ヲ要ス

第一、主刑ノ執行ヲ終リタルヲ

第二、主刑ノ執行ヲ終リタル日ヨリ五年ヲ經過シタルヲ但主刑ノ時効ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過スルヲ要ス

以上ノ年限ヲ經過シタル後ニ非サレハ復權ヲ請求スルノ權利ナシ故ニ刑事訴訟法ニ於テ定メタル復權ノ手續ハ皆此期間ヲ經過シタル後ニ行フモノト知ル可シ

然レモ大赦ニヨリテ免罪ヲ得タルモノハ直チニ復權ヲ得又特赦ニヨリテ免罪ヲ得タルモノハ特ニ赦狀中ニ復權ヲ明記シタルモノハ直チニ復權ヲ得刑法第六十四條若シ復權ノ明記ナキモノハ前ニ定メタル期間經過ノ後ニ非サレハ復權ヲ請求スルヲ得ス

刑 事 訴 訟 法

刑 事 訴 訟 法

刑事訴訟法ハ刑法ニ定メタル復權ヲ願ヒ及ヒ之ヲ與フルノ手續ヲ示シタルモノナリ而シテ其復權ハ一ニ刑ニ依リテ權利ヲ失フタルモノ、利害ニ關係スルヲ以テ官自ラ起リテ復權ヲ爲サシムルモノニ非ス故ニ第三百二十四條ニ規定セラル如ク復權ハ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノヨリ刑法第六十三條ニ定メタル期間經過シタル後司法大臣ニ向テ之ヲ爲ス可キモノナリ而シテ此願ハ必ス書面ヲ以テセサルヘカラス其復權ノ願書ハ直チニ司法大臣ニ差出ス可キモノニ非スシテ現ニ住スル地ノ地方裁判所ノ檢事ヲ經テ差出ス可キモノトス蓋シ其現ニ住スル地ノ地方裁判所ノ檢事ハ被刑人ノ諸般ノ行狀ヲ熟知スルヲ以テ此檢事ヲ經由スルヲ司法大臣カ復權ヲ許否スルニ當リテ大ニ利益アルモノナレハナリ第三百二十四條

復權ヲ請求スルニハ書面ヲ以テ爲ス可キヲハ前述ノ如シ而シテ其復權ノ願書ニハ復權ヲ許否スル官廳ヲシテ調査ヲ爲スニ便利ナラシムル爲メニ其復權ヲ得可キモノナルヤ否ヤヲ證明スルニ足ルヘキ書類ヲ附添スルヲ必要トス故ニ第三百二十五條ハ左ノ書類ヲ添エヘシト爲シタリ

第一、判決ノ正本

判決書ハ其復権請願者ヲ如何ナル刑ニ處セラレタルカヲ證明スルモノナリ
 犯罪ノ性質ニヨリテ其刑ノ輕キモ被廉恥ノ尤モ甚シキモフアリ又其刑重キ
 モ道德上ニ於テ左程賤ム可キニ非サルモノアリ例ヘハ詐欺取財ノ犯罪ニヨ
 リテ刑ニ處セラレタルモノト毆打罪ニヨリテ處罰セラレタルモノアランニ
 詐欺取財ノ刑或ハ毆打罪ノ刑ヨリ輕キ場合ナキニ非サルモ若シ其毆打罪ノ
 被刑者ハ一時人ヨリ自己ノ名譽ヲ毀損セラレタリト誤信シ劇怒ノ情遂ニ禁
 スル能ハスシテ罪ヲ犯シタルカ如キハ彼ノ利慾ノ情ヲ制スル能ハスシテ他
 人ノ財物ヲ奪取シタルモノト比スレハ德義ヲ破ルノ點ニ於テ最モ輕シトス
 而シテ復権ハ失却シタル公權ヲ回復スルモノニシテ被刑人カ真心悔悟シテ行
 狀ヲ改メ他ノ良民ト齒スルノ價値アル時ニ於テ之ヲ與フルモノナリ故ニ復
 権ヲ許否スルニハ嘗テ犯シタル犯罪ノ性質ハ大ニ關係アルモノナリ是レ判
 決正本ヲ差出サシメ嘗テ犯シタル犯罪ノ如何ナルモノナルヲ知ラシムル所
 以ナリ

第二、主刑ノ期滿特赦ト爲リ又ハ時効ノ成就シタルコトヲ證明スル書類

刑法第六十三條ニ規定シタル如ク主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過シタル
 後其情狀ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルコトヲ得ルモノナレハ主刑ノ滿期ヲ證明
 スル書類ヲ差出サシムルコトヲ要ス又特赦アリタル時ハ主刑ハ其特赦ニヨリ
 テ執行ヲ止息シ滿期ト同一ナルヲ以テ特赦ヲ得タルモノ復権ヲ請願スルニ
 ハ其特赦ヲ證明スルモノヲ差出サ、ルヘカラス又刑法第六十三條第二項ニ
 主刑ノ時効ヲ得タルモノモ復権ヲ得ルノ資格アリトス故ニ其時効ノ成就シ
 タルコトヲ證明スヘキ書類ヲ呈出シサルヲ得ヌ元來主刑ノ滿期トナリタル
 時ハ之ヲ證明スル書類ヲ得ルコトハ容易ナルヘシ例ヘハ監獄署ノ書類又ハ判
 決書ニヨリテ證明スルコトヲ得ヘシ特赦ニアリテハ特赦狀又ハ監獄署ノ書類
 ニテ證明スルコトヲ得ヘシ時効ハ受ク可キ刑ヲ受ケスシテ經過シタル場合ニ
 生スルモノナレハ前二ノ場合ニ於ケルカ如ク書類ヲ以テ證明スルコト困難
 ナル可シ然レモ檢事ニ請求シテ時効成就ノ證明書ヲ得テ之ヲ差出スヲ得ヘ
 シ其他刑ノ執行ヲ逃レテ住居シタル土地ニ住居シタル人ヲシテ證明書ヲ作

ラシク之ヲ出スヨリ得ヘシ是等ノ證明書ト雖モ判決ヲ爲スニ非サルヲ以テ
判斷ノ材料ニ供スルモ敢テ妨ケナシ

第三、假出獄及ヒ假ニ監視ヲ免セラレタル證書

假出獄ハ刑法第五十三條ニ定タル如ク獄則ヲ謹守シ悛改ノ狀アルモノニ限
リテ之ヲ許スモノナリ又監視ハ刑法第四十一條ニ定メタル如ク情狀ニ因リ
行政處分ヲ以テ之ヲ許スモノナリ此假出獄又ハ監視ノ假免ハ復權ヲ得ルノ
一條件ニハアラサルモ何レモ非行ヲ悔悟シテ其品行ヲ改メタル一ノ徵憑ト
ナルモノナルヲ以テ復權ヲ許スニハ大ニ參考トナルモノナリ故ニ復權請願
者假出獄監視ノ假免ヲ得タルモノナレハ之ヲ證明スヘキ書類ヲ得テ復權ノ
願書ニ添ヘテ差出ヌ可キモノナリ

第四、賠償及ヒ訴訟費用ヲ辨濟シ又ハ其義務ヲ免カレタル證書

賠償及ヒ訴訟費用ノ義務ヲ果サスト雖モ刑法ニ定メタル條件ヲ具ヘ復權ヲ
得可キ人ニシテ果シテ品行ヲ改メ良民ト齒シテ恥チヌ良民モ其嘗テ罪人ト
シヨリ意下セサル時ハ復權ヲ與フルモ妨ケナシ然レモ財產ノ負擔ヲ免脱

ル義務ヲ履行セシモノト云フヨリ得ヌ故ニ此免責ノ證書ハ之ヲ必要ノ條件
トナサズハ雖モ若シ差出ツ、ル時ハ請願者ニ對シテ復權ヲ與フ可キヤ否ヲ
判斷スルニ於テ大ニ影響アルヘシ其責任ヲ盡サ、ル人ニ在リテハ復權ノ價
値亦キモノ多カルヘシ

第五、復權請願者ノ過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載スル書類

本項ノ證明ハ公權ヲ回復セシムルニ適當ナル人ナルヤ否ヲ調査スルニハ尤
ニ必要ナルモノナリ例ヘハ品行ハ別段ニ賤シム可キモノニ非サルモ若シ一
定ノ住居モナク又是ト云フ生計ノ道モナキモノナランニハ未タ公權ヲ與ヘ
テ良民ト齒セシムルノ資格アルモノトナス能ハス

以上述べタル證明ハ第三百二十五條ニ依レハ復權ノ願書ニ添フ可シトアルヲ
以テ必要條件ニシテ之ヲ添ヘサル時ハ復權ヲ得ルヲ能ハサルカ如シ第二項ノ
書類ハ復權ノ必要條件ヲ證明スルモノナルヲ以テ必ス之ヲ要スヘキモ其他ノ
書類ニ至リテハ只復權ノ許否ヲ判斷スルノ材料ニ供スルモノニシテ必要條件

トスルニ非ス
 第二項ノ假出獄監視ノ假免ノ如キハ其之ヲ得タル者ハ之ヲ差出スヘシト云フ
 ニ過キス若シ否ストシ之ヲ必要條件ト爲スニ於テハ假出獄監視ノ假免ヲ得タ
 ル以外ノ受刑人ハ終ニ復権スルコトヲ得サルヘキナリ
 以上ノ書類ヲ添ヘタル願書ハ請願者カ現ニ住スル地ノ地方裁判所ノ檢事ニ差
 出スモノニシテ檢事之ヲ受取リタル時ハ其請願者ノ品行其他必要ノ取調ヲ爲
 シ其書類ニ意見書ヲ添ヘテ之ヲ檢事長ニ差出ス可シ第三百二十六條ニ復権コトハ本來
 行政處分ニ屬シ檢事ハ單ニ意見ヲ附シ其事件ヲ檢事長ニ送附スルニ止マラス
 シテ其送付前ニ必要ノ取調ヲ爲スノ責務アリトス其送付ヲ受ケタル檢事長ハ
 更ニ必要ナル取調ヲ爲シ復権願ニ關スル書類ニ意見書ヲ添ヘテ司法大臣ニ
 差出ス可キモノトス第三百二十七條
 司法大臣ハ檢事長ヨリ復権願ニ關スル書類ヲ差出シタル時ハ其書類ヲ檢閱シ
 之ニ意見書ヲ添ヘ速カニ上奏ヲ爲ス可シ第三百二十八條ニ刑法第六十五條ニ曰フ如ク
 復権ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラズ第六十六條故ニ司法大臣ハ復権ノ願ヲ許否

スルノ職權ナク意見ヲ具シテ上奏ヲ爲スニ止マリ許否ハ勅裁ニアリトス蓋シ
 復権ハ裁判ノ威力ヲ變更スルモノナレハ行政官廳ハ勿論裁判所ト雖モ爲シ得
 ヘキモノニ非ス只最上主權ノ勅裁ニヨリテ其變更ヲ爲スコトヲ得ルノミ故ニ司
 法大臣ヨリ復権ノ上奏ヲ爲シタル時ハ勅裁ニヨリテ其願書ヲ却下シ又ハ裁可
 アルモノナリ
 勅裁ニ因リ復権ノ願書カ却下セラレタル場合ニ於テハ司法大臣ヨリ其旨ヲ檢
 事長ニ通知シ檢事長ヨリ其願書ヲ差出シタル檢事ニ通知ス可シ第三百二十九條
 復権ヲ請願スル者ハ其願書ヲ爲スガ爲メニハ自己ニ對シテ一ノ不利益ナケレハ
 出來ル丈ケハ之ヲ爲サント欲スルハ人情ノ常ナリ而メ復権願ハ請願ナレハ裁
 判ト異ナリテ一度却下セラレタリトテ其請願ノ權利ヲ失却スルモノニ非ス故
 ニ却下ヲ受ケタル者ハ又直チニ請願ヲ爲スヤモ計ラレス然レモ今日復権ヲ得
 可キノ價值ナキ人トシテ却下セラレ明日直チニ其價值ヲ得ルノ理由アルコトナ
 ケレハ再ヒ復権願ヲ爲スニ付テハ法律ハ制限ヲ定メタリ乃チ復権願ノ却下ヲ
 受ケタル場合ニ於テハ刑法第六十三ニ條定メタル期間ノ半ハヲ經過スルニ非

レハ更ニ其願ヲ爲スヲ得スト第九條第三十項刑法第六十三條ニヨレハ主刑ヲ終リタルヨリ五年ヲ經過スルノ後公權ヲ回復スルコトヲ得又主刑ノ期滿免除云々五年ヲ經過スルノ後亦同シトアルヲ以テ復權ノ再請願ヲ爲スモノハ却下ヲ受ケタル日ヨリ二年ヲ經過シタル後ニ非サレハ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得ス其二年半ヲ經過シタル時ハ第一ノ請願ニ於テハ未タ復權ヲ與フヘキ價値ナシト爲シタルモノモ其後ノ歲月間ニ於テ眞心悔悟シテ復權ヲ得ルノ資格ヲ具ルコトアルヘシ故ニ其年限ヲ經過シタル時ハ更ニ請願ヲ爲スコトヲ許ス而シ其再ヒ復權ヲ願フ者ハ始メノ請願ト同一手續ニ從フテ之ヲ爲スコキナリ第九條第三十項蓋シ第一ノ復權ヲ却下セシ時ハ其人ニ對シテ復權ヲ得セシムルノ資格ナシトシタレハ其願書及ヒ證明書ハ用ヲ爲スモノニ非ス故ニ再ヒ請願ヲ爲スルハ更ニ其資格アルコトヲ證明セサルヘカラス

復權ノ裁可アリタル場合ニ於テハ司法大臣ヨリ復權ノ裁可狀ヲ檢察長ニ送致シ其送致ヲ受ケタル檢察長ハ之ヲ願書ヲ差出シタル地方裁判所ノ檢事ニ送致スヘシ其裁判所檢事ハ一面ニハ裁可狀ノ謄本ヲ願人ニ下附シ他ノ一面ニハ刑

ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ裁可狀ノ謄本ヲ送致シ其原本ハ檢事局ニ保存ス可シ而シ其裁可狀ノ謄本ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ復權ノ裁可アリタル旨ヲ判決原本ニ記入シ置ク可キナリ第三十條

復權ノ裁可ヲ得タル願人ニアリテハ剝奪セラレタル公權ヲ回復シ他ノ良民ト同一ニ公權ヲ行フコトヲ得ルモノナリ然レモ刑法第六十三條ニハ將來ノ公權ヲ復スルコトヲ得トアリテ復權ハ既往ニ遡ルモノニ非ス故ニ復權ノ裁可ヲ得タルモノト雖モ其裁可以前ハ公權ナキモノニシテ復權ヲ得タリトテ以前ニ遡及シテ之ヲ行ハント主張スルコトヲ得ヌ又衆議院議員選舉權ノ如キハ選舉期日ノ前ニ於テ復權ヲ得ルモ撰舉人名簿確定後ナルニ於テハ確定前ニ遡及シテ撰舉權ヲ行フコトヲ得ヌ

刑事上ノ復權ト商事上ノ復權ハ別種ノモノニシテ之ヲ混淆スルコトナカルヘシ商法第五十四條ニ依レハ破産宣告ヲ受タル債務者又ハ破産シタル商事會社ノ無限責任社員若クハ取締役ハ其破産ノ制裁トシテ取引所ニ並入ルコト仲立人ト爲リ合名會社若クハ合資會社ノ社員ト爲リ又ハ株式會社取締役ト爲ルコトヲ

算人破産管財人若クハ商事代人ノ職ヲ執ルヲ商業會議所ノ會員ト爲ルヲ其他
 商業上ノ榮譽職ニ就クヲ得サルモノトス是等ノ失權ハ復權ノ申立ニ依リ後
 日之ヲ回復スルヲ得商法第千五百條以下然レモ其失權ハ刑ノ結果ニ非スシテ破産宣
 告ヨリ生スルモノナレハ其復權ハ破産ノ結果ヲ除却スルモノナリ刑事上ノ復
 權ハ刑ノ執行ヲ消滅セシメ其結果ヲ除却スルモノナリ其手續ニ於テモ彼ハ破
 産裁判所ノ決定ヲ以テシ是ハ勅裁ニ因ルカ如キ大差アリ斯ク其名ハ均シク復
 權ナルモ其性質ヲ異ニスルヲ以テ刑事上ノ復權ト必シモ併行スルモノニ非ス
 商事上ニ於テハ復權スルモ刑事上ニ於テハ復權セサルヲアルヘシ然レモ刑事
 上ノ復權アリシキハ商事上ノ復權ト同一ノ結果ヲ生スルヲアリ以下ニ之ヲ述
 べん

有罪破産就中詐欺破産ニ付テハ前ニ述ベタル商事上ノ失權ト刑事上ノ公權剝
 奪ト併存スルヲアルヘシ此場合ニ於テ破産者ハ商法第千五百五十八條ノ條件ニ
 從ヒ商事上ノ復權ヲ得タルト雖モ刑事上ノ復權アルニ非サレハ刑法第三十
 一條第一號乃至第七號及ヒ第九號ノ公權ヲ回復セサルヤ論ヲ俟タス然レモ其

第八號ノ分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權ニ至リ
 テハ商法第千五十四條ニ於テモ會社ノ取締役清算人若クハ破産管財人ト爲ル
 ノ權ハ商事上ノ復權ニ依リテ之ヲ得ルモノトスルカ故ニ商事上ノ復權ヲ以テ
 刑事上ノ復權ハ有無ニ拘ラヌ刑法第三十一條第八號ノ公權ヲ回復スルモノ、
 如シ然レモ商法ハ其否ヲアルノ精神ヲ明ニシ其第千五十八條ニ復權ハ詐欺破
 産ノ爲メニ判決ヲ受ケタル破産者ニハ之ヲ許サ、ルモノトセリ故ニ此破産ニ
 依リ輕懲役ニ處セラレタル者ハ商事上ノ復權ヲ得ルヲナシ

然レモ刑法ハ罪ノ性質ニ依リテ復權ヲ許サズルノ區別ヲ爲サ、ルヲ以テ詐欺
 破産者ト雖モ或ハ刑事上ノ復權ヲ得ルヲアルヘシ此場合ニ於テ商法第千五十
 四條ニ列舉セル權利ノ内例ヘハ株式會社ノ取締役ト爲ルヲ及ヒ清算人若クハ
 破産管財人ノ職ヲ執ルヲ如キハ刑事上ノ復權ニ因リテ此破産者ト雖モ回復
 スルヲ得ルカ將テ商法第千五十八條ニ詐欺破産者ニハ復權ヲ許サズト規定
 セシハ刑事上ノ復權ニマテ右ノ權利ニ付テハ制限ヲ與ヘタルモノナルカ刑法
 第三十一條第八號ノ所謂分散者ノ管財人又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ

權下商法第五十四條並列舉スル會社ノ取締役清算人破産管財人ト爲ルノ權
 ハ同一物ナルコトハ多辯ヲ要セスシテ明ナリ少クモ分散人ノ管財人ト破産管財
 人トハ異別ノ管財人ナリトハ云フヲ得ヘカラス刑法ヲ頒布スルノ當時ニテハ
 分散破産ノ區別ナク民事商事共ニ分散ノ名稱ヲ用ヒタレハ刑法ノ分産ニハ破
 産ヲモ包含スルモノト云ハサルヲ得ス然レモ商法第五十八條ハ刑事上ノ復
 權ヲ得タル者ト雖モ是等權利ヲ回復スルコトヲ得スト云フニハアラサルナリ本
 條ハ詐欺破産者ハ破産裁判所ニ復權ノ申立ヲ爲スモ裁判所之ヲ許サズト云フ
 在リテ若シ最上主權カ刑ノ結果ヲ全ク消滅セシムルカ爲メ刑事上ノ復權ヲ
 與ヘ其結果トシテ取締役清算人管財人トナルノ權ヲモ回復セシメタルモ其
 人ハ別段破産裁判所ニ復權ノ申立ヲ爲スニ必要ナクハ第五十八條ノ爲メ
 其回復シタル權利ヲ行使ヲ妨ケラルベシナカレハ既ニ是等ノ權利ハ刑事上
 ノ復權ニ因リテ回復スルコトヲ得ルモノトスル以上ハ第五十四條ニ據ルモ
 其他ノ權利即チ取引所ニ立入ルコト仲立入ト爲リ合名會社若クハ合資會社ノ社
 員ト爲リ商事代人ノ職ヲ執ルコト商業會議所ノ職員トナルコト其他商業上ノ榮

譽職ニ就ク權ノ如キモ刑事上ノ復權ニ因リテ之ヲ行フコトヲ得ルモノトスヘシ
 何トナレハ是等ノ權利ハ公益ニ關スルヲ以テ破産者ニ之ヲ行使ヲ禁ス然ルニ
 其人既ニ公權ヲ回復シ刑ノ結果サヘ全ク除却セラレタルハナリ

第三章 大赦及ヒ特赦

大赦特赦共ニ刑ノ執行ヲ消滅セシムルモノナリト雖モ其性質ニ於テハ大ニ異
 ナル所アリ大赦ハ社會ヲシテ裁判上全ク罪ヲ遺忘セシメ初ヨリ罪ナク刑ナキ
 モノト見做スニアリ故ニ刑ノ言渡ヨリ生シタル諸般ノ結果ハ悉ク之ヲ除却ス
 特赦ハ只刑ノ執行ヲ免スルニ止マリ罪アリ刑アリ其人ハ依然刑人タルヲ免カ
 レス故ニ其刑ノ結果尙ホ存スルコトアルヘシ

今大赦ト特赦ニ付テ其重ナル差異ヲ擧クレハ左ノ如シ
 一、大赦ハ事件ニ對シテ行フモノナリ即チ明治二十二年憲法ヲ發布セラルニ
 當リ其盛典ヲ表シ惠澤ヲ施サルハカ爲メ勅令第十二號ヲ以テ行ハセラレタ
 ル大赦ハ人ニ對シテ行フニ非ヌ本勅令發布以前ニ於テ何カノ罪ヲ犯シタル
 者ハ赦免ス下アリテ刑人ノ何人タルヲ問ハヌ本令ニ指定シタル法律ヲ以テ

處罰シタル者ハ之ヲ赦免セザレタリ
 特赦ハ人ヲ目的トシ事件ニ對スルモノニ非ス後ニ見ル如ク刑事訴訟法ニ規定セル特赦ノ手續ハ皆人ヲ指定シテ之ヲ行フモノトス故ニ同一ノ事件ニテ處罰セラレタル者ト雖モ一ハ特赦ヲ受ケ他ハ之ヲ受ケサルコトアリ
 二、大赦ハ犯罪行為ナキモノトスルヲ以テ全刑ノ執行ヲ免スルニ止マラス其裁判ノ全部ヲ消滅セシム特赦ハ犯罪行為ナシトスルニ非サルヲ以テ全部若クハ一部ノ執行ヲ免スルマデニシテ其裁判消滅スルコトナシ然レモ私訴判決ハ公訴判決ニ附帶スルモノナリト雖モ一旦裁判アリタル上ハ一方ニハ民事上ノ權利ヲ得他ノ一方ニハ之ニ對スル義務ヲ生スルモノナリ而シテ其權利義務ハ私益上ノ關係ナレハ最上主權ト雖モ之ヲ動かスコトヲ得ヘカラス
 三、大赦ハ必シモ裁判後ニ之ヲ行フニ非ス裁判前ト雖モ大赦ヲ以テ公訴ヲ消滅セシムルコトヲ得ルモノナリ刑訴法第五條第六蓋シ大赦ハ事件全体ヲ犯罪行為ニ非スト爲スモノナレハ未タ裁判アラサル前ニ於テ總テノ刑事訴訟ヲ止息セシムルコトナリナラサルヘカラスナレハナリ特赦ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ行

スヲ得刑訴法第三十一條
 四、大赦ハ國事犯若クハ特別犯罪事件ニ對シテ行フノミ明治廿二年勅令第十號大赦令ノ如キハ皇族ニ對スル罪國事ニ關スル罪兇徒聚集罪保安條例集會條例爆發物取締罰則新聞紙條例出版條例罪ニノミ大赦ヲ行ハセラレタリ
 特赦ハ一般ノ犯罪ニ適用シ國事常事ヲ區別セス
 五、大赦ニ因リテ赦免セラレタル者ハ直チニ復權ヲ得ルモノトス蓋シ罪ナク刑ナクレハ一時失フタル公權ハ他ノ手續ヲ要セズ當然回復スヘキナリ之ニ反シ特赦ハ罪ナシトスルニ非スシテ只其刑ヲ免スルマデナレハ其赦狀中ニ復權ノ事ヲ記載シアルニ非サレハ之ヲ得ヘカラス刑訴法第六十四條
 六、大赦ヲ受ケタル者ハ再ヒ罪ヲ犯スモ再犯ヲ以テ論セス特赦ヲ受ケタル者ハ再ヒ罪ヲ犯スルハ再犯加重例ニ依リテ處斷ス是レ一ハ先キニ犯シタル罪ナク受タル罪ナク他ハ一度罪ヲ犯シ刑ヲ受ケタルモノナレハナリ
 大赦特赦共ニ 天皇ノ惠澤ニ出ルモノナリ故ニ之ヲ與ヘルト否サルトハ刑事ニ關スル法律ノ支配スル所ニ非ス殊ニ大赦ハ專ラ施政上ノ便宜ニ出テ他ノ上

奏ヲ俟タズ許與セラルルモノナシハ憲法第十六條ニ大赦ヲ命スルノ大權ヲ記
載シタルノ外別ニ其手續等ヲ規定シタル法律ナシ特赦ハ刑人カ行狀ヲ改メ其
刑ヲ免スルモ社會ニ於テ危險ナシトシタルハ司法部ヨリ上奏スルモノトナス
カ故ニ刑事訴訟法ニ其手續ヲ規定セリ

特赦ニ二種アリ一ハ刑ノ全部ヲ免スルモノ之ヲ單ニ特赦ト云ヒ他ノ一ハ刑ノ
一分ヲ免スルモノ之ヲ減刑ト云フ例ハ十年ノ徒刑ニ處セラレタル者ニ對シ
特赦ヲ以テ刑期ヲ五年ニ減シタルトキノ如シ此二種ノ區別ハ刑法及ヒ刑事訴
訟法ニ明文ナシト雖モ憲法第十六條ニ天皇ハ特赦減刑ヲ命ストアリ其減刑
ハ刑法ノ所謂減刑ニ非ズ特赦ノ一種ナリトス減刑ハ刑ノ性質ヲ變更スルモノニ
非ズ刑期ヲ減縮スルノミ若シ刑ノ性質ヲ變更スルハ裁判ヲ變更スルモノニ
シテ特赦ハ性質ヲ反ス

特赦ハ刑ヲ言渡シタル裁判カ法律ニ基キ被告人ノ權利トシテ上訴スルコト得
ヘキ程度ニアルハ之ヲ與フヘキモノニ非ズ故ニ第三百三十一條ハ刑ノ言渡
確定シタル後ニ申立ツルコト得ルモノト規定セリ判決カ猶上訴期間中ニアル

ルハ被告人自ラ充分其判決ヲ攻撃シテ變更セシムルコト得可キヲ以テ敢テ特
赦ノ必要ナシ若シ事件カ第二審ニ在ルハ特赦ヲ與フルトモシカ上告ヲ爲シテ
其結果最上權ノ與ヘタル特赦ノ効力ヲ變更スルカ如キ奇怪ナル結果ヲ生ゼン
特赦ハ刑ノ言渡確定後ニ行フモノニシテ法律ハ其期間ヲ定メス第三百三十一
條ハ言渡確定後ハ何時ニテモ之ヲ申立ツルコト得ルモノトセリ

特赦ノ申立ヲ爲スコト得ル者ハ何人ナルカ第三百三十一條ハ左ノ官吏ノミ申
立ヲ爲スコト得ルモノトセリ

第一、刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所檢察

第二、監獄署長

監獄署長ヨリ特赦ノ申立ヲ爲スルハ檢察ヲ經由スルシ其申立ヲ受ケタル檢
事ハ必ズ意見書ヲ添ユヘキモノトス

- 一 檢察又ハ監獄署長ヨリ特赦ヲ申立ツルニハ犯人ノ情狀ヲ具申シ特赦ノ許否
- ニ付充分ナル調査ヲ爲スコト得ル材料ヲ備ヘルヲ要ス而シテ特赦ハ裁判事務
- ニ非サルヲ以テ裁判所ニ爲ス可キモノニ非スシテ司法行政ノ首領タル司法

大臣ニ爲スモノトス又特赦ハ天皇ノ大權ニ屬スルヲ以テ司法大臣ハ檢事
若クハ監獄署長ヨリ特赦ノ申立アリタル時ハ其書類ニ意見書ヲ添へ上奏ヲ
爲ス可キナリ

第三、司法大臣

司法大臣ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ特赦ノ申立ヲ爲ス可キヲ得
十二 檢事又ハ監獄署ヨリ特赦ノ申立アリタルキハ司法大臣ハ特赦ノ申立ニ
意見書ヲ添へテ上奏ス可キモノナルコトハ上ニ見タル如シ司法大臣ハ獨リ此
場合ノミナラス自ラ特赦ノ申立ヲ爲スヘシト思惟シタル時ハ其上奏ヲ爲ス
コトヲ得ルモノナリ何トナレハ特赦ハ司法部内ノ行政事務ニ屬シ而シテ司法大
臣ハ行政事務ノ首領ナレハナリ
復權ニ付テハ既ニ講述シタル如ク被刑者本人ヨリ之ヲ申立ツルコトヲ得然ルニ
特赦ニ付テハ被刑者自ラ申立ツルノ權ナク檢事監獄署長司法大臣ノミ之ヲ申
立ツル權アリトス復權ト云ヒ特赦ト云ヒ均シク確定判決ヲ以テ執行ス可キ刑
ノ結果ヲ免ガルコトモノナリト雖モ其性質ニ於テ差異アリ復權ヲ願フモノハ何

レモ刑ノ執行ヲ終リタル後ニ在ルヲ以テ已ニ社會ノ監守ヲ脱シ其身体ハ自由
ナリ唯良民ト同一ノ位置ヲ得サルノ結果アルノミ故ニ其復權ヲ得ルト否トハ
公益ヨリモ寧ロ私益ニ關スルモノナリ故ニ本人ヨリ之ヲ請求セシムルコトヲ得
ルモ敢テ公權自ラ進シテ之ヲ與フルコトナシ之ニ反シテ大赦特赦ハ猶未タ社會
カ被刑人ニ對シテ自由ヲ與ヘサルノ必要アリトシテ監守シ刑罰ノ威力ハ嚴行
セラレルノ時ナレハ事皆公益ニ關シ被刑人ノ請願ヲ容ルノ時ニ非ス唯一ニ主
權者ノ惠澤ヲ以テ與フルモノナレハ之ヲ申立ツル者ハ公權ノ機關タル官吏ナ
リトス

特赦ノ申立アリト雖モ刑ノ執行ヲ停止セサルヲ以テ原則トス
監獄署長又ハ司法大臣ヨリ特赦ノ申立ヲ爲シタリトテ毫モ被告人カ受クル刑
ハ動カサルヘキモノニ非ス彼ノ上訴ノ場合ニ於テ刑ノ執行ヲ停止スルハ畢竟
上訴ハ被告人ノ權利ニシテ其刑ノ執行ト其權利ノ行使ト並ヒ行ハレサルヲ以
テ停止スルモノナリト雖モ特赦ノ申立ニ至リテハ一モ被刑人ノ權利ニ非サル
ヲ以テ刑ノ執行ト並存セサルノ理由ナシ特赦ノ裁可アラサル限リハ其刑ハ依

然下シテ行ハレサルヲ得ズ然レモ刑罰中ニ於テ死刑ハ他ノ刑ヨリモ回復ス可
カラサルモノナルヲ以テ特赦ノ申立アル時ハ例外トシテ停止セサルヘカラス
第百三十三項

上奏ノ後特赦ノ申立却下トナリタル時ハ司法大臣ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁
判所ノ檢察ニ通知ス第百三十三條然レモ之ヲ被告人ニ通知スルノ必要ナシ
特赦ノ裁可アリタル時ハ司法大臣ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察ニ特
赦狀ヲ送致ス可シ第百三十三條三而シテ其送致ヲ受ケタル檢察ハ特赦狀ノ謄本ヲ一方
ニ向テハ被告人ニ下附シ他ノ一方ニ向テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ送致
ス其裁判所ハ之ヲ判決ノ原本ニ記入スルモノトス
司法大臣ヨリ特赦ノ申立ノ却下ヲ通知シ又ハ特赦狀ヲ送致ス可キハ刑ノ言渡
ヲ爲シタル裁判所ノ檢察ナリトス其現ニ刑ノ執行ヲ爲シタル裁判所ノ檢察ニ
通知又ハ送致ヲ爲スヘシトハナサハルナリ故ニ上告ニ依リ擬律ノ錯誤アリト
シテ上告裁判所自ラ刑ノ言渡ヲ爲シタルモノニ係ル時ハ其却下ノ通知又ハ特
赦狀ヲ送付ハ上告裁判所ノ檢察ニ之ヲ爲スヘシ蓋シ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判

刑事訴訟法講義下卷畢

所ノ檢察ハ裁判ノ結果ヲ知ルヘキモノナレハ此檢察ノ知ラサルニ刑ノ執行ヲ
免スルカ如キトアラサルカ爲メナリ
復權ニ付テハ其願却下セラレタル時ハ或期間ヲ經過スルニ非サレハ再ヒ願ヲ
爲ストヲ得サルノ制限アリ是レ復權ハ本人ヨリ爲スモノナルヲ以テ此制限ヲ
置クノ必要アリト雖モ特赦ハ官憲自ラ申立ヲ爲スモノナレハ此制限ヲ置クノ
必要ヲ見サルナリ

法律學講義

3048
11

法律學講義
第一卷
第一章
法律學の概論
一、法律學の意義
二、法律學の分類
三、法律學の地位
四、法律學の目的
五、法律學の方法
六、法律學の歴史
七、法律學の未來

明治三十年六月廿九日印刷
明治三十年七月二日發行

定價金壹圓四拾錢

編輯者兼發行者

東京市赤坂區丹後町壹番地士族

平松福三郎

印刷者

同市本所區長崎町十二番地士族

竹村賴堅

發行所

司法省指定私立明治法律學校

講法會

東京市神田區駿河臺

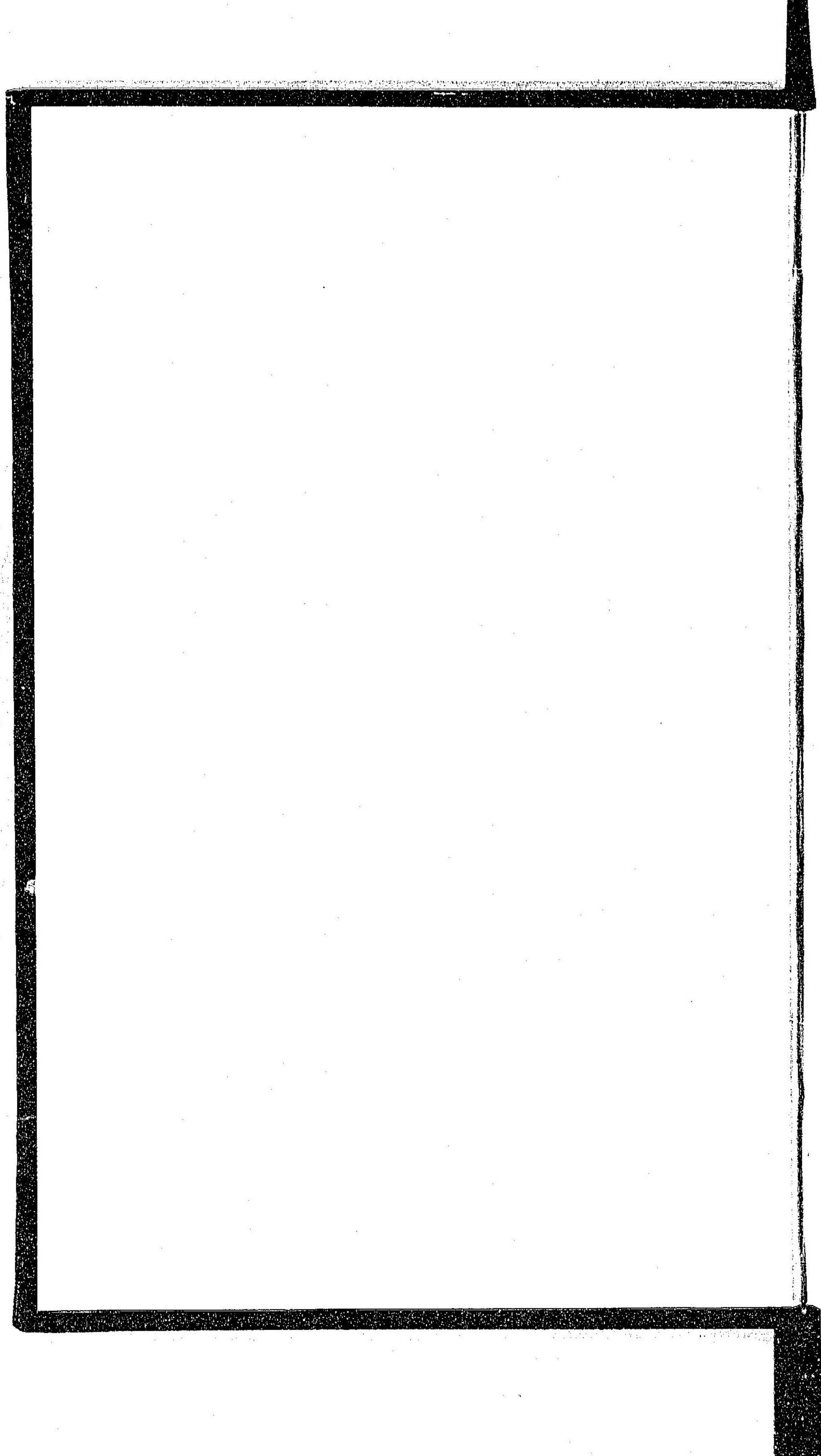
東京市神田區錦町三丁目八番地

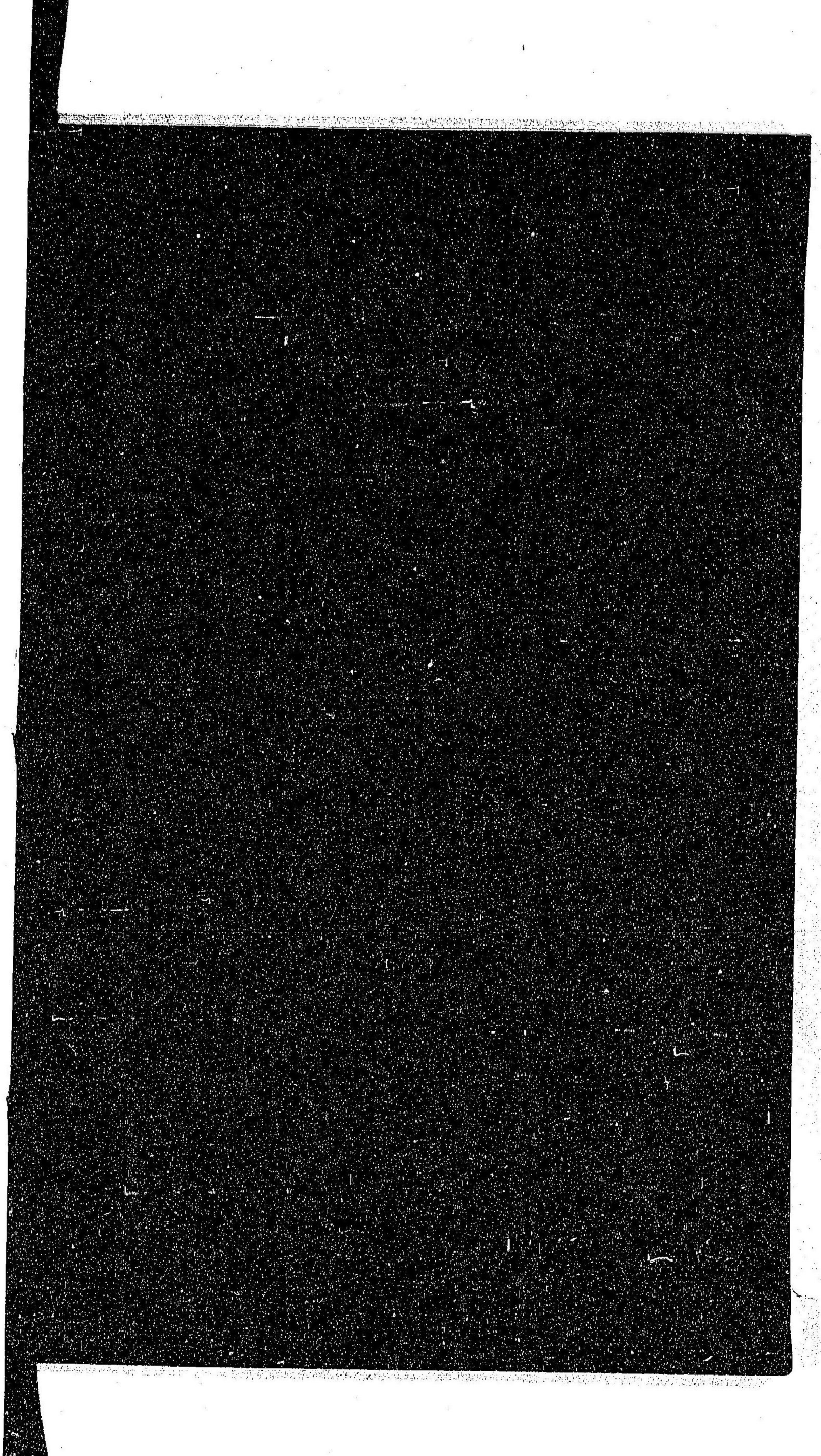
印刷所

八尾活版所

6554

#2073





特 70
114

